岐阜大学夏期短期留学
サマースクール2005

LUND UNIV.

SEOUL NATIONAL UNIV.
OF TECHNOLOGY

GRIFFITH UNIV.

GIFU UNIV. SUMMER SCHOOL

Gifu University
International Student Center

SUMMER SCHOOL 2005 REPORT CONTENTS

巻頭言
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第一部　夏期短期留学（受入）
プログラムと日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
日本語の授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
日本事情講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
エクスカーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
国際理解教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
岐大生との交流プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
夏期短期留学参加生名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
ホームステイファミリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
宿舎チューター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
留学生の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
まとめの会とアンケート集計結果報告・・・・・・・・・・・・・ 35

第二部　夏期短期留学（派遣）
グリフィス大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
短期留学（サマースクール）参加者アンケート・・・・・・・・・ 62

岐阜大学留学生交流推進委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・ 67

巻 頭 言

留学生センター長　ジョン・G・ラッセル

岐阜大学留学生センターは1996年5月に学内共同教育研究の施設として発足しました。その主な業務は外国人留学生のための日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導を行うことです。発足から9年がたった今日まで，日本への留学生の受け入れが益々盛んになっています。文部科学省によりますと，2004年5月1日現在，在日外国人の留学生数は117,302人で2003年より7.1％の増加です。その内，大学院生は29,514人，学部生は62,311人（短大高専を含む），専修学校は23,833人，準備教育課程は1,644人となっています。地方別にみますと，外国人を受け入れる地域では関東が一番多く50.8％，近畿は17.4％，中部は11.8％，その他の地方は全部で20.0％です。男女の人数の割合は男性50.8%, 女性49.2％と男性と女性の差が少なくなっています。岐阜大学でも今年の夏は400人近い外国人留学生が在学中です。そして。今年19回目を迎える本学のサマースクールは28人の参加者を記録しています。

どの大学でも，地域でも「留学生センター」という機関がそれぞれの国際化に大きな役割を果たしています。本センターが様々な意味で岐阜大学に在学する留学生にとって日本への玄関口であり，岐阜大学，いやもっと広く言えば，岐阜というコミュニティの「顔」でもあります。国際交流は国と国との関係というよりは人間関係によって一歩一歩前進させて行きます。もちろん，その人間関係は先生と生徒という縦の関係だけではなく，学生同士という横の関係も重要です。本センターでは近年，留学生と日本人学生の交流を積極的にしています。例えば，昨年，センターの主催で「外国人との日本語でのコミュニケーション講座」を3回開き，外国人留学生と日本人の交流を深める努力をしています。意見，文化，言語を交換する触れ合いの場です。また今年，新しい試みの一歩として，サマースクールで留学生と本学の日本人学生の交流を推進するために，「外国語教育と国際理解教育」という授業を設けました。

日本人は外国人と会う時に「いつお国に帰りますか」と直ぐに聞きますが，近年，在学する留学生は大学を卒業してから帰国せず，そのまま日本で就職し，日本のよい居住者になることが多くなっています。留学生と日本人がもっと自分達の意見，文化，言語を自由に交換でき，ゆとりのある，多文化的な空間を提供することによって，お互いが住み良い社会をつくっていくことに留学生センターは力を注いでいきたいと思っています。

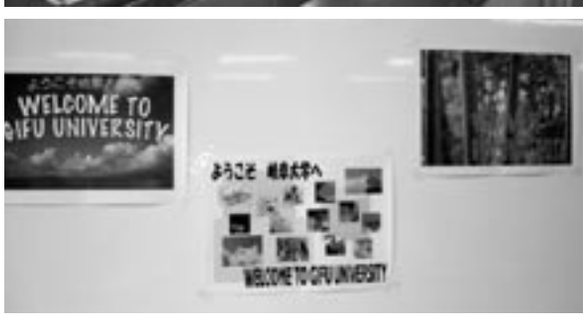
第一部　夏期短期留学（受入）

プログラムと日程

留学生センター・教授　森田　晃一

昨年は国立大学法人・岐阜大学となってはじめてのサマースクールであり，学内体制の変革にともなって，サマースクール自体もその在り方が変化した。しかし，その後は情況が落ち着いたこともあり，今年も昨年同様，サマースクールの計画・実施に関しては留学生交流推進委員会で，運営の中心は留学生センターで，という形式で進められた。

今年の特徴は，例年８週間コースに参加のスウェーデン・ルンド大学から，昨年より５人増加の23名の参加希望があったことで，３週間コースに参加の韓国・ソウル産業大学の５名とあわせて，昨年度の23名を大きく上回る28名の参加学生を得ることができた，ということである。関係者一同，嬉しい悲鳴を上げたのだが，最近３年間の参加学生数を見ると，18名→23名→28名と順調に伸びており，岐阜大学のサマースクールに対して一定の評価が与えられたものと，好ましく判断している。こうした傾向に導かれた要因は，サマースクール最終日に「まとめの会」を行って，参加学生から感想・意見・要望などを直接聞くとともに，さらに細かなアンケートを実施しているが，それらを参考にして毎年積極的に改善をしている結果である，と考えている。関係者一同，地道な努力を重ねることの重要性を，ここであらためて痛感することとなった。



因みに，ルンド大学では，サマースクールに参加した学生には，10単位を与える規定になっており，サマースクールのプログラムが大学の正式単位として認められている。また，このサマースクールが人気を呼び，日本語科への入学希望が殺到しているとも聞いている（2005年度ルンド大学人気単科コースのベストテンで，日本語科は全学で２位を占め，その人気の理由は「岐阜大学サマースクールという魅力的な学習活動で，より優れた学生達が集められる」からとのこと）。喜ばしい事実ではあるが，より魅力的なプログラムになるよう，知恵を絞らなければならないと，緊張感をあらたにしたところである。

さて，今年のプログラムも，例年通り，日本語の授業を中心にして，日本事情講義・見学旅行・ホームステイと，多彩な内容で実施することとした。日本事情講義に関しては，昨年から留学生センターの教員が中心になり，統一テーマを設定して講義展開をするようになったが，原則的には今年もそれを踏襲し，全７回の授業を計画した。とくに今年は，岐阜大学監事・梅村将夫氏に「日本経済の現状」というテーマで講義担当を依頼するほか，本格的な日本文化にふれてもらう目的で「能楽」を日本事情講義に取り込み，２回分を外部の講師・専門家にお願いした。

まず，日本語の授業だが，参加学生をＡ・Ｂの２クラスに分け，毎週月曜日から木曜日の午前中に２コマずつ行った。例年真面目な学生が多いが，とくに今年の学生たちは顕著で，サマースクール期間中も，しごく真摯に課題に取り組み，８週間ないしは３週間の学習成果を大いに上げたようである。使用テキストは，毎年担当教員が十分に協議した上で決定しているが，今年は新しいテキストを採用した。担当教員は相互に，授業内容についてメールで情報交換し，学生の様子，進度などについて確認しあいながら進めて行った。

日本事情講義は，落ち着いて日本語の授業に集中してもらうため（後半の３週間コースがはじまると，週末は３回の研修・見学旅行が予定されていて慌ただしくなる），昨年から７回に減らして実施している。これが効果的であったため，今年もそれを踏

襲することとした。前述のように，日本事情講義は，毎年改善を試みているが，今年は「能楽」を主テーマとして外部の講師・専門家を招くこととし，「日本の美術」「日本経済の現状」「日本の芸能・スポーツ」のあと，能楽研究者である名古屋女子大学教授の林和利氏に講義を，その翌週には，観世流シテ方の味方團・田茂井廣道両氏による能の実演を依頼し実施した。講義・実演とも，当代一流

の講師によるものだったので，その本物のもつ力は学生たちを圧倒したようである。また，郡上市へのホームステイに備えての「日本の伝統 1」，京都への研修旅行に備えての「日本の伝統 2」の講義も例年通りに行った。

研修・見学旅行は，恒例の大相撲名古屋場所の観戦，岐阜県関市の代表的な伝統工芸・刀研ぎの見学をはじめとして，郡上・京都へ出掛けたが，刀研ぎの見学については，例年お願いしていた研師の方がお亡くなりになり，別の方法で実施したものの，学生たちの評価は今ひとつで，存続を含めて来年への検討課題として浮上した。

郡上市への研修旅行は，郡上市国際友好協会の全面的な協力によって行われ，学生たちは３泊４日の日程で市内にホームステイした。到着初日は，まず書道・紙細工・郡上踊りなどの講座を体験し，夜は地元の皆さんとの交流会に出席し，その終了後にそれぞれホストファミリーの家へと向かった。翌日は，午前中に座禅・茶道を体験し，午後はフリータイムとなり，伝統的な盆踊りである郡上踊りを楽しんだ。３日目は，終日ホストファミリーと過ごす日であり，学生たちは落ち着いた町でゆっくり過ごすという，貴重な時間をもったようである。最終日の見送りの会では，学生各自が郡上市での経験に感謝しながら，ホストファミリーとの別れを惜しむ光景が，あちらこちらで見られた。

京都への見学旅行は，例年通り，伝統的な建造物である神社・寺院・城郭を組み合わせてコースを設定した。初日は，嵐山での昼食からスタートし，金閣寺・龍安寺・上賀茂神社・銀閣寺とまわった。２日目は，二条城･三十三間堂を訪れてから清水寺を見学し，その後は各自，参道を自由に散策しながら，土産物を購入する時間を取った。昨年も記したが，京都に対する学生たちの関心は高く，とても詳細かつ熱心に見学するので，各所でたちまち時間不足に陥ってしまった。やはり１泊２日の日程では，見学する時間･場所も限られてしまうので，学生たちの欲求不満も生じがちなのだが，今のところ，この問題の解決は困難である。継続的に検討すべき課題としたい。

さて，サマースクールの期間中，学生たちは大学の学外研修施設を宿舎として利用する決まりになっている。今年は参加学生が多かったので，ボランティアの日本人学生チューター総勢 13 名が，常時３名ずつ泊まり込んでさまざまなお世話をしつつ，学生同士で互いに交流を行ったようである。例年，宿舎でもさまざまな問題が起こっているが（たとえば昨年は，梅雨の気候に慣れない学生たちが，購入した食料を冷蔵庫に入れないため，食中毒の心配をした等々），今年はそうした，早急に解決しなければならない問題は生じなかった。ただし，参加学生の人数が多かったので，はっきりと２つのグループに分かれてしまい，参加学生同士のコミュニケーションがあまりうまく行かなかった，という報告はあった。

サマースクール最終日のフェアウェル・パーティには，大学関係者のほか，郡上市からもホームステイファミリーが多く駆けつけてくれ，広い会場内の各所で，別れを惜しむ姿が見られ，心温まる交換光景を見ることができた。毎年，このパーティでの光景が，関係者一同にとって，来年への活力になるのである。

● 平成 17 年度夏期短期留学（サマースクール）受入日程 ●

期　　間：8 週間コース　　［2005 年 6 月 6 日（月）～ 7 月 29 日（金）］
　　3 週間コース　　［2005 年 7 月 6 日（水）～ 7 月 29 日（金）］
参加人数：28 名【内訳…ルンド大学 23 人，ソウル産業大学 5 人】

6 月 6 日（月）	6 月 7 日（火）	6 月 8 日（水）	6 月 9 日（木）	6 月 10 日（金）	6 月 11 日(土)	6 月 12 日(日)
		8 週間コース開始 14：00　留学生集合 開講式 14：30～ 全体ガイダンス［森田］ 日本語ガイダンス［橋本］	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	**10：30 － 12：00 日本事情 （見学・旅行ガイダンス） ［牟田］**	フリー	フリー
6 月 13 日（月）	**6 月 14 日（火）**	**6 月 15 日（水）**	**6 月 16 日（木）**	**6 月 17 日（金）**	**6 月 18 日(土)**	**6 月 19 日(日)**
日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） 17：30～　歓迎会	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） 国際理解教育 3 時限（13：00 － 14：30）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	**日本事情講義 1 13：00 － 14：30 （日本の美術） ［太田］**	フリー	フリー
6 月 20 日（月）	**6 月 21 日（火）**	**6 月 22 日（水）**	**6 月 23 日（木）**	**6 月 24 日（金）**	**6 月 25 日(土)**	**6 月 26 日(日)**
日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） 国際理解教育 3 時限（13：00 － 14：30）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	**《見学 1》 「刀研（かたなとぎ）」 引率（大矢）**	フリー	フリー
6 月 27 日（月）	**6 月 28 日（火）**	**6 月 29 日（水）**	**6 月 30 日（木）**	**7 月 1 日（金）**	**7 月 2 日(土)**	**7 月 3 日(日)**
日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	**日本事情講義 2 （日本経済の現状） 10：30 － 12：00 講師：岐阜大学監事 梅村　将夫**	フリー	フリー
7 月 4 日（月）	**7 月 5 日（火）**	**7 月 6 日（水）**	**7 月 7 日（木）**	**7 月 8 日（金）**	**7 月 9 日(土)**	**7 月 10 日(日)**
日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） 国際理解教育 3 時限（13：00 － 14：30） **3 週間コース開始** 14：00　集合 14：30 全体ガイダンス［牟田］ 日本語ガイダンス［橋本］	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	**日本事情講義 3 9：20 － 10：20 （日本の芸能・スポーツ） ［橋本］**	フリー **岐大生との交流**	フリー
7 月 11 日（月）	**7 月 12 日（火）**	**7 月 13 日（水）**	**7 月 14 日（木）**	**7 月 15 日（金）**	**7 月 16 日(土)**	**7 月 17 日(日)**
日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） **《見学 2》 相撲 引率（太田）**	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） **日本事情講義 4 14：30 － 16：00 （能） 講師：名古屋女子大学 文学部教授 林　和利**	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） **日本事情講義 5 13：00 － 14：00 （日本の伝統 1） ［森田］**	**エクスカーション 1 「郡上八幡」 引　率（ラッセル，森田） 郡上八幡のホストファミリーで 7 月 18 日（月）まで ホームステイ**		
7 月 18 日（月）	**7 月 19 日（火）**	**7 月 20 日（水）**	**7 月 21 日（木）**	**7 月 22 日（金）**	**7 月 23 日(土)**	**7 月 24 日(日)**
（海の日）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） **日本事情講義 6 13：30 － 15：00 （能の実演） 講師：観世流シテ方 味方　團 田茂井廣道**	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00） **日本事情講義 7 13：00 － 14：00 （日本の伝統 2） ［森田］**	**エクスカーション2 「京都」 引　率（石田／渡邊）**		フリー	フリー
7 月 25 日（月）	**7 月 26 日（火）**	**7 月 27 日（水）**	**7 月 28 日（木）**	**7 月 29 日（金）**		
日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	日本語授業 （A・B クラス同時進行） 1 時限（ 8：50 － 10：20） 2 時限（10：30 － 12：00）	まとめの会［司会：牟田］ 10：30-12：00 17：30～　歓送会				

日本語の授業

留学生センター・講師　橋本　慎吾

岐阜大学サマースクールプログラムの中で比較的多くの時間を取って実施しているのがこの日本語授業である。毎週月曜から木曜，8時50分から12時まで，8週間コースでは25日間，日本語を学ぶことになる。短期集中日本語コースとしては十分な時間だと思う。

まず8週間コースでは，相手校（ルンド大学）から事前に日本語レベルの連絡をいただいており，大きなレベル差は見られなかったので，ＡとＢの２クラスに分け，同じ内容の授業を行なった。3週間コース（ソウル産業大学）については来日後にレベルチェックを行なったが，レベル差はほとんどなかったので，男女比を考慮して２つに分け，それぞれのクラスに入ってもらった。

教材は，学生のレベルが初級終了段階であることがわかっていたので，初級と中級の橋渡しとなる「初中級」というレベルでクラスを設定することにした。教材は『中級へ行こう』（スリーエー・ネットワーク）を使用した。この教科書は，各章が文法，読解，ディクテーション，作文の４つのパートで構成されており，また2004年に出版された教科書なのでテーマやデータも新しく，語彙リストも整っている。ただ，文法などの分量（実際の授業で費やす時間）に比べ，読解部分の文章が少ないので，日本語授業をお願いする講師の方々に，読解補助教材（関連読解文など）の作成をお願いし，「補助教材集」として学生に配布した。

各課の作文は，授業中に書いて提出，書ききれなかった場合は宿題にして提出を求め，Ａ，Ｂ＋，Ｂ，Ｃの４段階で採点して返却，フィードバックした。Ｂ＋という段階を設定したのは，漢字や文法の小さな間違いが見られるが，内容はすばらしい，といった作文が多く見られたため，そういう作文をＢにするに忍びなく，もう１段階Ｂ＋を設けたのである。つまり，非常に若々しい発想で書かれた魅力的な作文が多かったということである。

また，コースの最後に口頭能力テストを実施し，学生の日本語能力の伸びを見た。一人５分程度の短いテストだったが，日本での体験や授業で取り扱ったトピックについて，質疑応答をした。来日当時と比べて，自分が考えていることをかなり話せるようになったと，進歩の実感をつかんだようである。

まとめの授業として，学生が「これが日本だ」と思う写真を撮ってきて，その写真を説明する作文を書く，という活動を行なった。これは日本人学生とのディスカッションを行なう「国際理解教育」（p14参照）ともリンクした内容となっている。このとき書いた作文をp24に掲載しているのでお読みいただきたいと思う。日本人が普段気がつかないような留学生ならではの視点で書かれた興味深い内容となっている。

コース最初の日本語ガイダンスの際，「80％以上の出席が必要です。15分以上遅れたら「遅刻」，遅刻２回で欠席１回になります」と説明した。この規則に強制力があるわけではないが，基準を明確にしておいたほうが学生たちのコースへの取り組みも

はっきりするであろうとの見解で最初にラインを示した。だから，かどうかは分からないが，学生の出席は概ねよかったと思う。ただ，後述する「暑さ」のために自主的に自室療養する学生がいたりしたが，自分の出席情況は把握していたようであった。

今回の日本語授業で問題になったのは暑さ対策であった。今年の夏は例年になく暑く，エアコンなしではとても過ごせるものではなかった。教室として使用した２つの部屋（大学会館というサークル活動などに使われる建物の集会室を借りた）にもエアコンはついているが，一方の部屋のエアコンが小さく，なかなか部屋が涼しくならなかった。日本人である講師が暑いというくらいなので，日本の蒸し暑さに慣れていないスウエーデンの学生たちに我慢しなさいというのが無理な話。暑さに耐え切れずエスケープする学生もいたり，授業中も集中できずボンヤリしている学生もいた。来年暑くなるかどうかは分からないが，エアコンなしで過ごせるほど涼しくなるとは考えられない。この暑さ対策は来年度の課題の一つであろう。

教科書については初めて使用するものであり，今後は文法教材の充実などを行ない，よりよい内容にしていきたいと考えている。学生たちがこの授業をどのように評価したかについては最終章の「まとめの会」のアンケート結果を参照していただきたいが，「非常によかった」「よかった」が多かったので，よかったと思う。

授業担当講師

月　六郷　明美・伊藤かんな
火　加藤由紀子・宮谷　敦美
水　佐藤　恵美・橋本　慎吾
木　伊藤かんな・野原美和子

日本事情講義

日本事情講義 1

日本の美術

留学生センター・教授　太田　孝子

翌週の関の刀研ぎや博物館の見学を前に，今年は浮世絵と刀を中心とした講義を行った。昨年，刀研ぎの引率で岐阜県博物館を見学した際，版画に好きな色をつけて浮世絵もどきの絵に仕上げるコーナーで，留学生が興味を示していた様子が印象に残っていたため，浮世絵についても紹介したいと考えたからである。

浮世絵については代表的な絵のコピーを渡した他，本やビデオを使って多くの作品を紹介した。何人かの学生は，浮世絵をプリントしたＴシャツや文房具などを持っているということだった。続いて，役者絵の刀を差した姿から刀へと講義を移していった。ここでも，刀職人のそれぞれの技が結集して一本の刀が作られる過程をビデオを使って紹介した。刀の柄に巻かれる組み紐の多様な文様や化粧研ぎによって浮かび上がってくる刀文の美しさに,「芸術」を感じたようだ。また，刀と共に，鎧や兜などにも芸術的嗜好が施されたことを写真を示してつけ加え，最後に全員で折り紙の兜に挑戦した。全員とても上手で，色とりどりの兜が出来上がった。

日本事情講義 2

日本経済 歴史と課題

岐阜大学・監事　梅村　将夫

日本が貧しい時から今のように裕福になるまでの時代変化を説明。しかし，裕福になってもいろいろな問題や悩み抱えているので，国民は問題の克服に努力しなければならないという話をした。若者にとって努力過程の歴史よりは，現状により強い関心があるようであった。工場の海外移転によるメリットは企業のみにあるのではとの質問があった。周辺国の経済発展問題にも触れることで国際社会の相互依存関係を説明する必要を感じた。

日本事情講義 3

日本の芸能・スポーツ

留学生センター・講師　橋本　慎吾

大相撲見学の前に，相撲の歴史とルール・用語などについて解説する授業を行なった。毎年この授業を行なっているが，今年度は相撲を全く見たことがないという学生はほとんどおらず，年々相撲の浸透度が高まっていることを実感する。

現横綱をはじめ，外国人力士の台頭が目立つ昨今であるが，この講義の時点では琴欧州の快進撃がまだマスコミを騒がせていなかったので，講義で彼を紹介しなかったことが悔やまれるところである。韓国人力士（春日王）は紹介したが，韓国学生は彼を知らなかった。十両昇進以来あまり目立った活躍がないせいもあるだろう。同じ韓国相撲（シルム）出身ではチェ・ホンマン（K 1）のほうが知名度が高いようだ。

講義については，例年同様，相撲をスポーツとして捉えている学生がほとんどで，神事的な部分などは難しいこともあってあまり関心を示してくれなかったが，ルールの説明や投げ技の紹介などには興味深そうだった。

日本事情講義 4

能

留学生センター・教授　森田　晃一

今年は日本事情講義の特別テーマとして「能楽」を企画し，外部の一流講師・専門家に依頼して，能楽に関する本格的な講義と実演を実施した。

翌週に行われる実演の前に，まず，講義によって「能楽」に関する基礎的な知識を得ることにし，現在，能楽研究を主導している一人として著名な，名古屋女子大学教授・林和利氏に講義を依頼した。林氏には，やさしい日本語で，初心者にも分かり，かつ深い内容にもおよんでほしい，という難題に対応していただいた。

その内容は，まず，「能楽」とは何か，という問いかけがあり，それは能と狂言を指したものだという指摘，そして両者の違いをビデオを通して，視覚的に明らかするところからはじまった。つぎに，「能楽」の歴史に関して，中日新聞に連載中である林氏執筆の記事を使用しながら，簡潔にまとまりのある，分かりやすい解説がなされた。また，「能楽」の演目に岐阜を素材としたものがあることなどが指摘され，「能楽」と岐阜との深い結び付きにも言及された。

講義の途中には，謡曲「高砂」を実演指導され（林氏ご自身，学生時代に能の修行をなさった経験がある由），学生たちは神妙な面持ちで「たかさごや，このうらぶねにほをあげて……」と唱和していた。

学生たちにとって，代表的な舞台芸能である「能楽」に接することははじめての経験であり，本格的な講義の展開に興味深そうに聞き入っていた。「能楽」に関する知識をまったくもたない外国人学生に分かりやすい講義を，という難しい要求に，快く応じてくださった林氏に心から感謝を申し上げたい。

日本事情講義 5

日本の伝統 1

留学生センター・教授　森田　晃一

翌日から，毎年恒例となっている「郡上プログラム」（サマースクール期間中に，郡上市国際友好協会の全面的な協力で実施している日本文化研修とホームステイのプログラム）がはじまるため，このプログラムがより効果的であることを願いつつ，テーマを「日本の伝統 1―郡上市を事例として」として，①岐阜県郡上市について，②生活文化とは―茶道を中心に―，③祭礼と民衆―郡上踊りの歴史から―，という 3 つの内容で講義を行った。

①については，つぎのような郡上市の特色を，順を追って説明した。昨年，隣接する 7 町村が合併して，広大な市域を有する郡上市が誕生し，この新市がちょうど岐阜県の中央部に位置すること。その市内を清流・吉田川が貫流し，落ち着いた佇まいを

見せる城下町であること。ところが，夏を迎えると，夜を徹した熱狂的な踊りで全国的に知られる郡上踊りで賑わうこと。

②については，生活文化とはどのようなものか，それを，日本の代表的な伝統文化である茶道を一例にとって，茶の日本への伝来からはじめ，独特な作法を形成するに至った経緯を，ビデオを見せながら解説した。

③については，郡上市で製作された「水と踊りの町　郡上八幡」というビデオを見ながら，代表的な盆踊りの一つであること，国の重要無形民俗文化財に指定されていること，などを説明した。

日本事情講義 6

能の実演

留学生センター・教授　牟田おりゑ

本年度初の試み「能の実演」が観世流シテ方・味方團先生の御協力で実現した。同じく観世流シテ方田茂井廣道先生と共に，「石橋」の一場面を実演して下さり，その後，能面について，能の基本的な動きとして「摺り足」，声出しの基本として「謡い」，最後に能装束の着付けのデモンストレーションをして下さった。

江戸時代から伝わるという能面を間近に見せてくださり，学生達に喜怒哀楽をどう表現するか実演させた上で，能面では角度の違いその他で喜怒哀楽を表すという能の奥深さ感じさせて下さった。次に基本的な動き「摺り足」を全員に体験させ，「声出し」練習には「高砂」の有名な一節を指導して下さり，学生達は喉・全身を動かすことによって，多少なりとも能を感じることができたのではないだろうか。

最後に能装束の着付けでは，事前に抽選で選ばれたルンド大学のレベッカさんがモデルになり，女性役の能装束の摺箔から縫箔までの着付けを，途中で実際に糸でかがる肩上げも含めて，実演時のように見せてくださった。能楽師は料理以外は何でもしなければならないというご説明はこれらの実演で説得力を帯びるものだった。次に鬘を付け，白い鬘帯を締められ，最後に面を付けられるにつれて，レベッカさんは幽玄の彼方から降り立った人のような雰囲気を漂わせ始めた。

ルンド大学芸術学部の学部長ルンドストロム先生と日本語科主任の鈴村ルンドストロム先生が学生達と一緒に見学なさったが，２時間もの間，あれほど集中して聞き入る学生を見たことがないと驚嘆されていた。前列２列に座っていた学生達の中には，デモンストレーションが終り，他の学生達が立ち上がっても，味方・田茂井両先生が衣装の始末をなさっている間，じっと座り続けて先生方の動作を見守り，終った時に頭を下げて謝意を表す学生がいたという。大袈裟な感情表現の少ない韓国やスウェーデンの学生達の反応は当事者にとって心配なものだが，ルンドの学生達が相当感激していたようだとルンドストロム先生から伺った時はほっとした。

ローンを借りてまでサマースクールに参加する学生達には，日本文化の「本物」を体験させてあげたいという思いから，「能の実演」を企画したが，味方先生の御協力，また，留学生課の粥川課長補佐や飯沼千代香係長の御尽力なしには実現しなかった。御礼申し上げます。

日本事情講義 7

日本の伝統 2

留学生センター・教授　森田　晃一

翌日から京都への研修旅行に出発する予定になっていたので，その事前準備を兼ねて，「日本の伝統 2 ―宗教都市・京都との関連で」というテーマを設けて，①京都研修旅行の概要，②平安造都―京都の誕生，③宗教都市・京都の現在，という内容で講義を行った。

まず，研修旅行の日程・集合時間・集合場所・解散時刻・解散場所を確認し，2 日間の見学場所が，金閣寺・龍安寺・上賀茂神社・銀閣寺・二条城・三十三間堂・清水寺の 7 ヶ所にわたることを示し，用意した資料とビデオの視聴を通して，見学のポイントについて説明した。

つぎに，京都の都市的な特徴を把握するため，他の都市（東京・奈良・大阪など）との相違や，東日本と西日本の相違などについて説明し，京都という都市名の由来，中国の都・長安を模して造営されたこと，794 年から 1869 年までの約 1100 年間，日本の都であったことなどを解説した。

また，京都を宗教都市と捉えて，日本人の信仰に関して，土着の神への信仰，伝来した仏教の教え，神と仏への信仰の習合等々について解説し，京都が政治都市から文化都市（とくに宗教）へと変貌した，歴史的な展開過程について説明した。

なお，見学場所に対する深い理解を得るために，関連のビデオをいろいろと見せたが，ビデオで使われる解説の日本語がやや難しかったため，若干消化不良に終わったようである。映像資料を用いる場合には，工夫が必要であることを認識し，それを今後の課題としたい。

エクスカーション

関の刀研ぎ見学

工学部・教授
大矢　豊

「梅雨はどこへやら」と思うくらいのかなり暑い6月24日の午後，ルンド大学のサマースクール生とともに，関市の関鍛冶伝承館と百年記念公園内の岐阜県博物館へ見学に出かけました。蒸し暑さのため，バスを降りるときは辛そうな顔をしていた学生もいたものの，見学のときは，特に体験コーナーでは元気いっぱいでした。

最初は，関鍛冶伝承館を見学しました。ここでは，刀研ぎの実演を見ることができました。またそれだけではなく，実際に刀を手に持つという体験までさせていただきました。学生たちも，生まれてはじめて手にする刀に興味津々であり，いろいろ刀研ぎ師の方に質問していました。刀研ぎ師の方から，刀の手入れの仕方や歴史などいろいろなことを教えていただき，非常に有意義な体験となりました。

次に岐阜県博物館を訪れました。博物館内は自由行動でしたが，やはり体験コーナーの人気が高かったようです。「ようこそ，昆虫の世界へ！」という企画展示が行われていましたが，虫の絵を描くコーナーでは，童心に返って熱中する学生も．．．。浮世絵体験や動物のハクセイを手で触れるコーナーも楽しかったようです。

いろいろな体験に満足し，ちょっと涼しくなり始めた夕刻にバスで帰路につきました。

相撲見学

留学生センター・教授
太田　孝子

7月12日，午後から貸し切りバスで相撲見学に出発した。これまで公共交通機関を利用していたことを考えると，なんと楽だったことか！

愛知県体育館の入り口で記念写真を撮り，館内へ。途中工事のために道が混んで，横綱の土俵入りに間に合うかどうか心配したが，着いたときには十両最後の取り組みが行われておりぎりぎりセーフ。多くの学生が相撲見学を楽しみにしていたようで，早速ビールを買い込んで，取り組みに見入っていた。応援の仕方を覚えた数名が一斉に力士の名前を叫んだり，勝ち負けに一喜一憂したり，外国人力士には特に大きな声援を送っていた。中には，どちらが勝つか廻しの色で賭をしているグループもあり，お金が行き来しているのが見えた。

皆大きな声で声援を送り，拍手をしたり溜息をつき，土俵の近くまで降りていって写真を撮るなど，充分に相撲を堪能していた。また，売り子さんが定期的に回ってくるほど大量にビールを消費し，お土産も買っていた。それに反して客席の半数以上が空席であり，今後も相撲が維持されるのか心配になるほどだった。

弓取り式も感激したようで，誰がやるのか，どういう練習をするのかなどたくさんの質問が出た。最後の触れ太鼓の音を聞きながら，体育館を後にした。

郡上八幡エクスカーション

留学生センター・教授
森田　晃一

7月15日（金）から17日（月）まで，郡上市において，日本文化体験とホームステイをセットにした「郡上プログラム」が実施された。全日程が3泊4日にわたるため，引率は，ラッセル（15・16日），森田（16・17日），山田（15・16日）の3人が手分けをして行った。今年のサマースクール参加学生は総勢28人にものぼり，過去最大の人数であったため，郡上市側ではホームステイファミリーを探すのに苦労したということであったが，事故もなく，例年のごとく参加学生にとっては最高の思い出となったようである。

スケジュール全般は，例年と変わることなく，到着初日の15日は，市庁舎でのオリエンテーションの後，すぐに書道の講座を体験，昼食後は，紙細工・郡上踊りの講座を体験し，さっそく日本の伝統にふれることとなった。夕刻には，各自古い町並みが残る町内を散策し，日本の風情を堪能した。夕食後は，地元の方々との交流会に出席し，ここでホストファミリーとはじめて対面した。また，学生の代表が，スウェーデンと韓国，あるいはルンド大学とソウル産業大学を紹介するなど，和気藹々の内に交流会も終了した。その後，学生たちは，ホストファミリーに連れられて，これから4日間を過ごす家へとそれぞれ向かった。

16日は，午前中に日本が誇る伝統文化である座禅と茶道を体験し，午後はフリータイムとなって，夜は上殿町で開催される郡上踊りを楽しんだ。

17日は，終日ホストファミリーと友好を深める日であり，それぞれホストファミリーとの計画に従って，自由に行動することとなったが，学生たちは，日本の伝統的な落ち着いた町で，思い思いの時を過ごすという，貴重な体験をしたようである。夜は，旧庁舎記念館前で郡上踊りが開催され，浴衣や甚兵衛に身を固めた，「イキ」な姿の学生たちが，身体の大きさもあって，相当目立ちながら楽しそうに踊る姿があちらこちらで見られた。

18日は例年通り，午前10時から，郡上市国際友好協会とホストファミリーの方々が見送りの会を開いてくれた。ホストファミリーの車に乗せられて，つぎつぎと会場に入る学生たちは，すっかり家族の一員のように溶け込んでいて，見ていてとても心和むものがあった。会がはじまって，学生たちとファミリーたちの4日間の感想が披露されると，思わず微笑んでしまったり，ホロリと泣かされたり，会場はたちまち和やかな雰囲気に満ちあふれた。学生たちもホストファミリーの方々も，とても良い時を過ごすことができたのだな，ということを実感した時であった。

さて，サマースクール終了後，ルンド大学から次のような知らせを受けた。2005年度ルンド大学人気単科コースのベストテンが新聞に掲載され，日本語科が全学2位であったという。その人気の理由は，「岐阜大学サマースクールという魅力的な学習活動で，より優れた学生達が集められる」からとのこと。そのサマースクールの魅力の要因の一つが「郡上プログラム」にあることは間違いない事実である。郡上市，郡上市国際友好協会の皆様に深く感謝するとともに，今後とも相変わらぬ交流を続けて行きたい，と切に願うところである。

京都研修旅行

工学部・助教授
石田　勝

7月21，22日　筆者を含む引率者3名とルンド大学からの学生23名，ソウル産業大学からの学生5名で京都に向かった。嵐山で昼食後，龍安寺，金閣寺，銀閣寺さらに上賀茂神社と，35℃を超える酷暑の中，汗だくになりながら見学した。いずれも日本人観光客よりも外国人観光客が多いようで，さすが国際観光都市・京都であると感服したしだいであった。ホテルで小憩後，引き続いて「祇園コーナー」で日本古典芸能（茶道，華道，琴，日本舞踊，狂言，人形浄瑠璃，雅楽　等）を観賞した。いずれも簡潔にまとめられており1時間程度の実演紹介で，かつ，英語での解説もあり，なかなか興味深いものであった。夜景を楽しみつつホテルへ戻り夕食会，和気あいあいとした雰囲気の中，京都の夜は更けていった。翌朝は寝過ごした学生はいたものの，予定通り三十三間堂，二条城，清水寺と見学し帰途についた。

二日間の強行スケジュールで，現在の日本とはかなりギャップのある寺社仏閣，古典芸能に触れて，学生諸氏がどの様な印象を得たか興味深いところである。ともあれ，岐阜大学サマースクールのいい思い出になったことを，引率者一同願っている。

国際理解教育

留学生センター・講師　宮谷　敦美

この授業は，日本人学生と，ルンド大学の学生がディスカッションするというもので，今回初めて行った試みでした。日本人学生は，地域科学部の中川先生が担当なさっている英語クラスの学生で，4月からスウェーデンについての英語資料を読み，この授業のために準備し，参加しました。

授業は90分授業が全3回，日本およびスウェーデンについて，日本語と英語で話すという形式で行いました。1回目は「スウェーデンについて」で，事前に日本人学生が準備したスウェーデンの生活事情に関する英語の質問に対して，ルンドの学生が答えていきました。日本人学生は，外国人と英語で話した経験がほとんどない人ばかりだったので，ルンドの学生への質問に四苦八苦していました。2回目は，ルンド大学の学生が日本にいる間に行きたいと考えている場所について，3回目は，それぞれが日本らしいと思う写真について話し合うという内容でした。

今回の授業では「日本語だけ，英語だけ」というのではなく，自分たちが使えるあらゆる手段を使ってコミュニケーションをする実践ができたと思います。ルンド大学の学生には，自分たちが捉えている日本や日本文化について日本人学生と話し合う場を持てたこと，日本人学生にとっては，外国人が見た日本の姿を知ることによって，自分の文化へのまなざしに新しい発見があったのではないかと思います。

初めての実践であり，残された課題も多いですが，今回の反省を来年度の授業計画に役立てたいと考えています。

岐大生との交流プログラム

応用生物科学部生産環境科学課程１年　田中　亜依

７月９日，岐大生との交流プログラムとしてソウル産業大学生のウェルカムパーティーを行いました。参加者は，ソウル産業大学生，ルンド大学生，チューター，そしてチューター以外の岐大生や，先生方です。チューターは前もってパーティーの準備をしました。料理は，手巻き寿司，肉じゃが，ポテトサラダ，エビチリ，刺身，たこ焼き，かき氷など日本の家庭料理をつくり，肉や魚介が食べれない人もいるので肉入りと肉なしなど工夫をしました。みんな手巻き寿司は食べたことがないみたいで，「とても楽しい！」「おいしい！」と特に好評でした。料理はほとんど全部なくなってしまったほどです。

その後ちょっとしたゲームも行いました。ジェスチャーゲームというもので，ホワイトボードに書かれた単語を体で表現して，仲間に何の真似をしているのかあててもらうというものです。本当は,２チームにわかれて１回ずつ予定をしていたのですが，とても盛り上がったのでもう１回ずつ追加しました。これには参加する人としない人がいましたが，みんな見ててとてもおもしろそうに笑っていました。私は，ルンドもソウルの学生も言葉が通じるのかなぁとかとても不安でした。しかし，そんなことは全くなくみんな日本語がとても上手で，とてもおもしろくて，親切で優しいです。普通に今まで一緒にいた友達みたいな感じがしました。こうやって，一緒にごはんを食べたり，ゲームをしたり，何気ない会話も全部，全部楽しかったです。

夏期短期留学参加生名簿

No.	氏　名	性別	大　学
1	ダニエル・アンデルソン Daniel Andersson	男	ルンド大学
2	アンドレー・アスプルント Andre Asplund	男	ルンド大学
3	レベッカ・ベルグ - オルスン Rebecca Berg-Olsson	女	ルンド大学
4	ヨナタン・エクマン Jonatan Ekman	男	ルンド大学
5	サラ・フェカデ Sara Fekade	女	ルンド大学
6	マッティアズ・フレドリックソン Mattiaz Fredriksson	男	ルンド大学
7	ペーテル・ジョンソン Peter Jonsson	男	ルンド大学
8	ヨナス・カルデルスタム Jonas Kalderstam	男	ルンド大学
9	ヨーン・クリストファソン Jon Kristoffersson	男	ルンド大学
10	エリク・クロンバーグ Erik Kronberg	男	ルンド大学
11	エリン・クドウ Elin Kudo	女	ルンド大学
12	ヨナス・リンドグレン Jonas Lindgren	男	ルンド大学
13	ヨハン・ルンドホルム Johan Lundholm	男	ルンド大学
14	オリバー・ルンドクイスト Oliver Lundquist	男	ルンド大学

No.	氏　名	性別	大　学
15	レナルト・ニエメレ Lennart Niemela	男	ルンド大学
16	マックス・ニルソン Max Nilsson	男	ルンド大学
17	トビアス・オルソヌ Tobias Olsson	男	ルンド大学
18	トマス・スーンヘデ Thomas Sunhede	男	ルンド大学
19	エーリン・ストリツベルグ Elin Stridsberg	女	ルンド大学
20	クリステル・トング Christer Tung	男	ルンド大学
21	アレクサンダー・ワーノーフ Alexander Warnolf	男	ルンド大学
22	マツ・ドーナ Mats Doona	男	ルンド大学
23	フィリップ・フォン・プラテン Philip Von Platen	男	ルンド大学
24	アン　ビョンジュン 安　炳俊	男	ソウル産業大学
25	ジョ　アジョン 趙　娥貞	女	ソウル産業大学
26	ジン　ヘミ 陳　慧美	女	ソウル産業大学
27	イ　スンヨン 李　昇龍	男	ソウル産業大学
28	イ　ウィズン 李　宜俊	男	ソウル産業大学

郡上八幡から

7 月 15 日から 18 日まで，郡上八幡でエクスカーションとホームステイを行いました（p12 参照）。現地でお世話になった方々が感想を送ってくださいました。

郡上市八幡地域振興事務所総務管理課
国際交流担当
松島　浩生

今年度初めて国際交流を担当することとなり，郡上八幡国際友好協会のみなさんとともに，この郡上八幡エクスカーションに関わらせていただきました。

今年度は昨年度より５名多い 28 名の留学生が郡上八幡を訪れるということで，ホストファミリーの確保が最大の課題でしたが，無事全員を受け入れさせていただくことができました。私の家庭も受け入れをしましたが，ホストファミリーのみなさんと同じ気持ちで４日間を過ごすことができ，とても良かったと思っています。私にとって，とても感慨深い仕事となりました。

プログラムについては昨年度と同じ内容で行いました。留学生のみなさんに満足いただけたかどうかが心配なところですが，郡上おどりは確実にみなさんに喜んでいただけたものと思っています。２日続けて郡上おどりに参加されている留学生も多かったようです。来年度も郡上八幡に来ていただけることとなりました折には，今年度の留学生のみなさんの感想や大学側からのご意見を伺い，より魅力のあるプログラムを計画したいと思います。

最後となりましたが，このプログラムにご協力をいただきました全てのみなさまに厚くお礼を申し上げますとともに，留学生のみなさんには，心からエールを送りたいと思います。がんばって下さい。

ホームステイファミリーの感想

井藤万紀子さん

「あといくつ寝たら，ヨハンのおうちに遊びにいけるの？」３泊４日のホームステイが終わって，集合場所に送り届けて帰る車の中で，ぽつんと子どもが聞きました。

留学生の皆さんがバスに乗り込んでお見送りをする段では，２歳の娘は号泣し，１年生の息子は目を真っ赤にして別れを惜しみました。さんざん泣いて静かになった帰り道でした。

短い期間でしたが，家族として一緒に過ごすことができた貴重な週末でした。子どもたちにとっても，家に来る親の友人などとはまた違った，より自分に近い存在として，彼を受け入れていたのだなと思います。滞在中，何度しかっても，ヨハンの部屋に入り浸り，四六時中くっついてはなれませんでした。一緒に川で遊び，花火をし，蛍を見に行って，といったいつもの遊びも特別に感じられたことだと思います。

お引き受けするとき，夫も仕事で留守だし，子どもを２人面倒見ながら，ちゃんとお世話できるかしら，と不安な気持ちでいたのですが，そういう，子どもの世話や家事でバタバタする普通の生活に入ってもらうことで，かえって，お互いに親密感を覚えることにつながったように思います。

「国際交流」や「相互理解」などと，抽象的な言葉にしてしまうと，よくわからなくなってしまいますが，お互い１人の人間として，一人一人が触れ合うことがすべての基本なのだなと，実感させていただきました。また，最後の反省会で，ホストファミリーの方が皆さんのいろいろな思いをうかがえたのもとても印象的でした。

得がたい体験を，ありがとうございました。

羽山千尋さん

今回このような体験をさせていただき，有難うございました。私の家には，21 歳の Elin という女性の方が訪問してくれましたが，彼女はとても可愛く，一緒にいて私自身が教えられる事ばかりでした。例えば，日本の文化を受け入れようとする姿がみられました。相手の文化を受け入れるということは難しいことですが，ご飯を食べる時に箸を使うなど，日本人にとっては普通の事かも知れませんが，そのような気持ちが私たちを幸せにしてくれたと感じます。

私は，国際関係にとても興味がありますが，Elin にスウェーデンの話を聞かせてもらい，前よりスウェーデンという他国の地が身近に感じられるようになりました。

今まで私は，他の家族の方に受け入れてもらう側でしたが，今回このような体験をすることによって，受け入れ側の気持ちも良くわかりました。15 日から Elin が来ることになって，どんな子かなあ，楽しんでくれるといいなあ，と思うことばかりで，多くの楽しみでいっぱいでした。3 日間という短い期間で私は彼女と一緒にいる事で，毎日がとても楽しかったです。その分別れが辛く，泣いてしまったことがあったけど，「See you」と言われ，いつかきっと，今度は私が会いに行きたいなあ，と思いました。

私も，今月の 29 日から，オーストラリアで 18 日間ホームステイを体験します。異国を訪問する事は，期待もありますが不安な気持ちもあります。そんな中，私も Elin のように多くの文化に触れて，行った時よりも成長した自分で帰って来たいです。

このような体験をする事が出来，本当に良かったです。

羽田野 貞子さん

「顔が引きつるほど不安で一杯」，これが初めてホームステイを受け入れる日の率直な心境でした。

そして，いよいよ歓迎会。「ホストファミリーも一緒に楽しんでください。」との鷲見協会長の言葉に，もてなすことばかり考えていた私は考え方を改め，迎え入れる学生と一緒に楽しもうという思いになりました。

まずは，マックスを交えて 3 泊 4 日のスケジュールを決める家族会議です。関心があったのか，大学に通う娘もこの日は自宅に戻り，開口一番「高鷲の牧歌の里に行きたい。」でした。近くにありながら訪れたことのない私は，賛成派につきました。主役のマックスは，「お任せします。」の一言。遠慮があったのか，主張の少ない彼の様子を感じ取り，この時期ならではの郡上おどり，そして，主人が提案した蛭ヶ野の分水嶺や，阿弥陀ヶ滝を候補にあげました。さらに，義父母が元気に暮らす田舎「小那比」を紹介すると，彼は目を輝かせました。

短期間ではありましたが，生活行動を共にしたマックスは，私たち家族に大きなものを残してくれました。それは二つあります。

ひとつは家族の絆の大切さです。高校生の息子は，成長するにつれ私たち夫婦と行動を共にすることが極端に少なくなりました。「親に付いて歩くなんて」，「格好悪い」が言い分でしょう。私としてはホームステイを通じて「我が子に新たな風を吹き込みたい。」ことが正直な願いでした。息子は素直に同意（「来る者は拒まず」が息子の弁）しましたが，夫は心配だったようです。ところが彼は意欲的でした。スウェーデンの情報収集や，あらかじめ提供された情報の把握，仲の良い義兄との話題にもなったようです。当たり前かも知れませんが，期間中は家族はごく自然な雰囲気で会話も弾みました。息子が楽しんでいる姿を見ると，とてもほほえましく感じたものです。

特筆すべきは，小那比の父母との出会いでした。母自慢のほう葉寿司，事前情報が功を奏した義妹夫婦手作りの流しそうめん。とりわけ，ほう葉寿司はマックスの評価も高く，「世界に通じる母の味」に話題は盛り上がりました。さらに，郡上弁で話す父と，それが訳せず電子辞書片手のマックスとの会話はとてもほほえましく，いつもやさしく可愛がってもらっている息子とマックスをオーバーラップさせた私でした。あらためて家族の絆の大切さを垣間見た一時でした。

二つ目は，国を超えた人のつながりを身近に感じたことでした。世界地図を広げるなど，私たちの会話は大いに弾みました。マックスは，酒が進むにつれ主人と息が合ったようです。福祉大国であるとは理解していたものの，スウェーデンの消費税はなんと 30％，大学の授業料は無料とのことです。彼のお母さんは，3 年前に大学入学を果たしたとのこと。正直驚きました。彼の妹が飼っている愛馬のことや，日本に興味を持ったきっかけの囲碁の話。あっという間の一時でしたが，私たち家族はマックスを通じて日頃話題性のない異文化との出会いを大いに楽しむことができました。

古い考えかも知れませんが，外国人は肌や目の色，生活習慣が違う世界に暮らす人と思っていたのは私だけでしょうか。朝寝坊で私が声をかけたくらいでは起きてこないマックス。息子が体を揺さぶってようやく目を覚ますマックス。おどりが大好きで，お酒もほどほどに飲めて，夜遅くまで私たちに付き合ってくれたマックス（実は夜型人間）。マックスは，私たちに「みんな一緒だよ。」って，教えてくれたような気がします。我が家に息子が一人増えたような感じがしました。

別れの前夜，印象に残ったことを「郡上おどり」と「小那比」と言ったマックスに，小那比について再度尋ねると，「おじいさんとおばあさん」との返

答がとても嬉しく，今も深く心に残っています。ホストファミリー受け入れのきっかけとなった息子は，反省会の際の学生さんたちの話に聞き入り，みんなしっかりした考え方を持った人と感心していました。

わずかな出会いであっても，別れは寂しいものです。マックスを見送る際，不器用さ（車の窓を開けようにも，先を越されて断念）は息子並みのマックスが愛しく，目頭を熱くしている私を主人と息子は笑いつつ，別れ際に「またこいよ」って，固い握手を交わしていました。

あっという間の４日間，それはとても有意義でした。こうした機会を与えていただいた友好協会関係者の皆様に深く感謝申しあげます。

そして，楽しい一時をありがとうございました。

臼田成之さん

この度のホームステイの受け入れをするにあたり，受け入れ前は留学生を受け入れようか正直迷いましたが，国際交流に興味があったのでホストファミリーに応募させていただきました。しかし，実際にスウェーデン留学生を受け入れると，想像以上に日本語を上手に話され，また日本についてよくご存じで，本当に驚きました。

今回のホームステイで，郡上の素晴らしさを知って頂く目的で，郡上の各所を回ったり，実際に郡上おどりを体験して頂いたり，また，野菜採りの体験もして頂きました。我が家にホームステイされたレナルトさんは，流しそうめんと大滝鍾乳洞が特にお気に入りのようでした。また，郡上おどりの会場で，休憩中に一人の知らないおばあさんがやってきてレナルトさんに笑顔で話しかけてきましたが，一生懸命に笑顔で，且つ日本語で会話される場面がありました。とても感動し，またレナルトさんの優しさを見ることができた一場面でした。今回，郡上の素晴らしさを知って頂こうといろいろ案内しましたが，逆に私もレナルトさんのおかげで郡上の素晴らしさを改めて再認識させられた気がしました。

このホームステイの受け入れをするにあたり，私以外の家族はどちらかというと拒否的でしたが，実際に受け入れると，家族で食卓を囲み，ビールを飲みながら会話が弾み，両親も楽しかったと感想を言っていました。短い期間でしたが，いろんな貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

吉田和華子さん

受け入れ前，留学生がここでしかできない体験は何かと，一緒に過ごす時間のことをあれこれ考えていました。始まってみると家族の時間は自然に過ぎ，そんなに考え込まなくてもよかったと感じました。いま，スウェーデンの弟ができたことを嬉しく思います。

留学生を見ていて印象に残ったのは，郡上おどりです。ほとんどの学生がおどり会場に出向き，楽しそうに踊っていました。地元郡上の文化を通してみんなで輪になり楽しめる場面があり，お互いに良い思い出になりました。おどり会場で困ったことが一つ，水を売っているお店が限られていて，少し離れた水飲み場まで足を運びました。留学生はふだん，日本人でいう冷茶のように水を飲んでいたので，おどりの熱気で暑い場所には「郡上の水」を売るお店が増えるといいですね。

ホストファミリーを申し込んで初めて巡ってきたこの出会いと，過ごした楽しい時間を思いながら，この先もこのような出会いの場を大切にしていきます。

後藤明親さん

今回，初めてホストファミリーを受けさせていただきました。正直なところ，初めは乗り気ではありませんでした。仕事上事務局が近くにあったというのがホストファミリーを受けた理由でしたが，今は「やってよかった，また来年も・・・」という気持ちです。

スウェーデンからの留学生アレックスを迎えることとなり，我が家は前日から大掃除，言葉は大丈夫だろうか，食事はどうしたらいいか，そんな不安はありましたが，対面式で紹介され握手をした瞬間，ふっと不安がなくなりました。意外だったのは子どもたちの反応。４年生，２年生，４歳と３人の子どもたちが，すぐに馴染んで遊びを始めている。アレックスは電子辞書を片手に子どもたちの郡上弁に奮闘している様子でした。和良町をサイクリングしたり高山へ観光に行ったり，夕食ではたこ焼きを作ったり・・・，子どもたちの希望で計画をたてました。子どもたちには素敵なお兄さんが出来たような，「アレックス，アレックス」と名前を呼んでずっと一緒でした。最終日，アレックスを送るとき子どもたちの目には涙がありました。３日間という短い間でし

たが子どもたちの間には大きな出来事だったと思います。子どもたちの涙を見たとき「ああよかったな，いい経験できたな」と感じました。私も言葉の壁を越えた交流，正しい日本語を伝えることや，英語をもう少し話せたらと感じました。不安だらけのホストファミリーでしたが，いい経験をさせていただいたと感謝しております。

小林道弘さん

今回で２回目のホストファミリーをさせていただきました。今年こそ英語の勉強をしようと思いこみましたが，彼の日本語のすごさにびっくりしてしまい，英語の勉強にもなりませんでした。というか，自分が勉強する気がなかったのだと思いますが。その点，彼らは自分からやる気を出して書道や座禅など日本の文化や生活に溶け込もうとしているからすごいと思いました。

我が家でもバーベキューをしたり，川へ遊びに行ったりと，とても楽しい時間が過ごせました。話も上手だし，箸の使い方も上手で，びっくりしました。また，次の日には鍾乳洞や流しそうめんにも本人はびっくりしていました。

４日間というものの，実際は２日間のような気がして短すぎると言うのが本音になるような気がします。せっかく仲良くなれた時にバイバイでは，私たちも，彼もさみしい気持ちだったと思います。我が子も今でも，彼の名前を出して思い出話をしてくれます。短い時間でしたが，とっても楽しかったです。また次回も是非参加したいと思っています。

どうか彼も，体にだけは気を付けていただいて，元気に力いっぱい何事にも頑張ってほしいと願っております。ありがとうございました。

森友佳子さん

私達家族にとってホストファミリーは初めてでした。楽しみと不安で気が焦るばかりで，ちゃんとした準備もなく当日が来ました。案の定，緊張で「ようこそ」の言葉しか出てこない私達でしたが，エリンのお父さんが青森出身の日本人だという話から盛り上がり，皆緊張が一気にとけました。昼間は釣りをしたり八幡城，慈恩寺，斎藤美術館，温泉などいろんな所をまわりました。エリンは「きれいねー」ばかり言っていましたが，私も本当にきれいだなあと思いました。普段，通っている道の奥にこんな江戸時代の様な空間や知らない場所があるなんて，改めて八幡の良さに気づかされました。夜は鮎のバーベキューをしました。エリンはベジタリアンですが魚は好きで，鮎を何匹もおいしそうに食べて，父もうれしそうでした。それから家族全員，母に浴衣を着せてもらい踊りに行きました。エリンは郡上おどり講座で習っていない踊りも見よう見まねで上手に踊り，私達も久しぶりに踊って心地よい汗をかきました。（今年は私達も知らない踊りを覚えなきゃ）寝る前は，お酒も飲んでスウェーデンのことや日本のこと，将来の夢などいろんなことを話しました。歌も一緒にいっぱい歌って，本当に楽しくてあっという間の４日間でした。今からという時にもうお別れで，心に大きな穴がぽっかり開いたみたいで本当に寂しい思いです。こんなに素晴らしい夏の思い出を作ることができて，家族皆，感謝しています。今ではスウェーデンが身近に感じられ，インターネットで調べたり，エリンの話も毎日しています。このすてきな偶然の出会いを大切にして，これからもメールや電話などでお付き合いできたらいいなと思います。

和田幸宏さん

私自身がホームステイを体験したのは今から 10 年前の夏。忘れられない大切な思い出であり，今でも私の生活に大きな影響を与えています。今回ホストファミリーを引き受けたのは，そんな 10 年前を思い出したかったことと，昨年ホストファミリーを引き受けた知人の薦めによるものです。

今回の主役であるヨナタンさんの母国スウェーデンのことは，車メーカーや歌手程度の知識しかありませんでしたが，会話を重ねることで普段はあまり馴染みのないスウェーデンという国の理解を深めることができたと思います。一方で，郡上の歴史，文化，自然をヨナタンさんが満喫してくれたのなら幸いだと思います。

今回ヨナタンさんと４日間を共に過ごしたことは，私にとっても自分自身を見つめ直す本当によい機会になりました。常に学び続けることの楽しさ，何かに関心を持ち続けることの喜びを，何事に対しても積極的なヨナタンさんに，改めて思い出させてもらうことができました。また，外国に対する新たな関心も芽生えました。

ホストファミリー引き受けるには家族の協力が欠かせませんが，ぜひ，多くの方に体験してほしいと思います。

宿舎チューター

サマースクールチューターを経験して

応用生物科学部２年　**片桐　　舞**

サマースクールチューターとして過ごした二ヶ月間は本当に短く感じた。それは，この二ヶ月間がなかなか経験できない充実した時間であったからだ。

留学生との会話では，完全には理解しあえないことがあったけれど，伝えようと努力してくれる気持ちがうれしかったし，伝えたいという気持ちが大切だと実感した。言葉が少し理解できないくらいのことは，一緒に遊んだり，ご飯を食べたり，パーティーをしたりして楽しい時間を過ごすには，ほとんど問題ではなかった。

チューターとしてなにかできたのだろうかと考えると，特別なことはなにも出来なかったし，チューターであるという自覚も足りなかった。その点は反省しなくてはならない。しかし，チューターになったことでサマースクール生やチューターのみんなに出会え，見たことがないもの，聞いたことがないこと，知らなかった考え方にふれられたことに感謝したい。全てが楽しい思い出だ。

駅まで見送りに行ったときは，今までに感じたことがあるものとは少し違う寂しさを感じた。サマースクール生にはまた日本に来てほしいし，今度は私がスウェーデンや韓国へ彼らに会いに行きたい。

サマースクールがくれたもの

教育学部４年　**鳥居美由紀**

今年もサマースクールにチューターとして参加させていただきました。今年は自分自身の留学を控えていたこともあって，迷いに迷っての参加だったのですが，このサマースクールにチューターとして加われたことに，心から感謝しています。

今年は私が経験した４回のサマースクールの中で最も参加者が多かったため，始まる前の不安も例年以上に大きかったのですが，やはりサマースクールに対する期待はそれ以上でした。というのも，毎年，このサマースクールを通して本当にたくさん

の人たちと出会い，言葉では表せないほど貴重な体験ができるからです。今年は23人のスウェーデン人，5人の韓国人，そして13人のチューターがこのサマースクールのために集まりました。もちろんスウェーデン人や韓国人は初めて会う人ばかりですが，チューターの中にも，サマースクールを通して初めて知り合う人たちもいます。そんな初めて会う人たち同士でも，たった2ヶ月で親しくなれるというのは，このサマースクールだからこそできることだと思います。そして学生ばかりではなく，留学生センターの方々や先生方，サマースクールの間，寄宿舎となる学外の管理をして下さる西川さんなど，このサマースクールには本当に大勢の方々が関わっていて，それらの大勢の人たちとの出会いというのが，このサマースクールには欠かせないものではないかと思います。

そして，もう一つ欠かせないものといえば，「問題」です。今年はそれほど大きな問題はなかったのですが，例年，このサマースクールには問題がつき物です。何かでもめたり，誰かが怪我をしたり，日本人同士では当然の事が学外ではそうはいかなかったり，誤解があったり･･･。問題なんてなければない方がいいと思うのが普通かもしれませんが，こんなことからこそ，得るものがたくさんあるし，こんな時こそ，自分の視野の狭さに気づかされ，お互いの文化や考えを理解しようとする，本当にいいチャンスだったように思います。だから，サマースクールではそんな問題や心配や不安さえも，なければならい大事な一部分だと思えるし，サマースクールが終わってしまえば，全部がすばらしい思い出です。そして，何気ない普段の生活の中でも，サマースクールでは驚かされることや，文化・習慣の違いをたくさん感じることがあります。例えば，サマースクールの間，スウェーデンの学生がDVDを見せてくれるというので，一緒に映画を見る機会が何度かあったのですが，同じ映画を見てもいても，日本人には面白いと思わないようなところで，スウェーデン人が笑っていたりして，感じ方の違いを感じさせられることが何度となくありました。また，夜，お腹が空いたと言って，冷蔵庫から生のニンジンを出してきてピーナッツバターをつけて食べていたり･･･。とにかくこのサマースクールでは，毎日が想像のできないことの連続で，時には何が「普通」なのか分からなくなることもあったし，私たち日本人が普通だと思っていたことが，世界では普通ではないのだ

ということにも気づかされました。日本にいながら体験するカルチャーショック，これもまた，サマースクールの面白さの一つだと思います。

今振り返ってみると，4回のサマースクールにチューターとして参加させていただきましたが，プログラムの内容にそれほどの差がないにもかかわらず，この1年1年，そして1日1日がとてもExcitingで，毎日がドキドキ・ハラハラの連続でした。そして1年1年，誰か一人でも欠けていたら，そのサマースクールはありえなかったと思うし，今の自分もありえないのではないかと思います。もし，チューターを経験し，こんなにも素晴らしい出会いをしていなかったら，スウェーデンという，日本からはるか遠い国に興味を持つこともなかったかもしれません。そして何よりも，今頃ソウルにも来ていなかったと思います。チューターを体験して，このサマースクールから言葉では表すことのできない，大きな大きなプレゼントをもらったような気がします。チューターをしなかった自分は今では想像もできません。スウェーデンのみんな，韓国のみんな，そしてチューターのみんなに出会えたことに，本当に感謝の気持ちでいっぱいだし，みんなに心からありがとうと言いたいです。また，サマースクールの間，センターの方々，そして先生方には本当にお世話になりました。本当にありがとうございました。

チューターを終えて

応用生物科学部２年　　杉山　真央

「楽しかった！絶対にまた会おう！」そう言って帰って行く 28 人の留学生を見送ったあと，急にサマースクールの２ヶ月間が本当にあったのか，夢の世界だったんじゃないかと思えてきました。それほど学外研での生活は現実離れしたものでした。スウェーデン人 23 人，韓国人５人，そしてチューター 13 人での共同生活は，想像出来ないハプニングが日常茶飯事で，毎日が充実していました。学外研に行けば行くほど文化や考え方の違いを感じ，そして自分が日本人であることを改めて感じたのですが，けれどやっぱり国は違っても同じ人間，分かり合えないことはないと思いました。国籍も年齢も性別も異なる人たちが 41 人集まってする共同生活が全てスムーズにいくわけはなく，時には悩み，ぶつかり合うこともありましたが，皆が最低限のルールを守り，高い意識を持って生活してくれたお陰で，大きな問題は起こることなく，平和に楽しく過ごすことができました。

チューターの経験で自分自身も成長でき，大勢の友達もできました。始まる前，不安でいっぱいだったのも，最後には終わってほしくないという気持ちでいっぱいになっていました。けれどこの２ヶ月で生まれた絆は固いです。皆に絶対にまた会えると信じています。

最後に，28 人の留学生，12 人のチューター，そしてサマースクールに関わった全ての先生方，関係者の方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。

私の心に残るこの一枚

～サマースクール参加学生の見た日本～

サマースクールに参加した学生たちが書いた作文をご紹介します。彼らが「これが日本だ」と感じたものを写真に撮り，その説明をしています。彼らが体験した「日本」を彼ら自身の言葉で表現しています。留学生ならではの小さな日本文化論としてお読みください。

部屋に何が起こった？

ダニエル・アンデルソン

スウェーデンでは，僕はほとんど毎日寝室をきれいにしているけれど，日本に着いてからは本当にあまり掃除しなかった。多分日本の熱さのために，やる気がなくなってしまったのだ。

学外研には，全部の部屋にせんぷうきがある。しかし，せんぷうきがあっても，部屋は全然涼しくならない。それにりょうはいつも暑過ぎている。夜おそくまでエアコンがある集会室にだけいられる。学外研のある所は外より暑くて，時々息がしにくくなる。はまべで息をがまんしている魚のような感じになる。

紙一枚から始まるけれど，すぐにゆかはめちゃめちゃいっぱいになる。こういうふうになってからだと，どうすればいいのか全然分からなくなってしまう。しかし，ついに昨日（7月14日）部屋を掃除した。これからは部屋を汚くしなければいいだろう。

大きいくも

アンドレー・アスプルント

このけいけんは日本で一番心にのこるものではありませんが，とても楽しく，そしてこわいものでした。

ぐじょうはちまんで，私とヨンさんはながら川のそばにいました。その日はすごくあつかったので，私たちは川に行って，およぎました。そのあと，帰る時に大きくてきれいなかんぼくを見つけたので立ちどまって，写真をとりました。

とつぜん，かんぼくに，すごく大きいくもがくものすにいるのを見つけました。そのくもはあしが長くて，あたまとからだがとても大きいのでこわそうでした。それで心配になりました。

くもはおなかがすいていたみたいだったので，私たちはくもが「おなかがすごくすいたんです」と言っていると思いました。だから私たちは小さい花をくものすになげました。すぐにくもは花に走って来てちょっとだけ食べて，帰りました。ヨンさんは「そうか，わかった，わかった」，「このくもはあたまいいです」と言っていました。それから，こんちゅう

を見つけられなかったのでヨンさんは小さいきのこをくものすになげました。

その時，くもはもう一ど食べ物に走って来てぜんぶ食べて。速く帰りました。私たちはすごくびっくりしました，そのあと，ゲップが聞こえたように思いました。

ヨンさんは「このくもは菜食主義者です」と言っていました，私たちは帰ってから，たくさん笑いました。

日本の食べ物

レベッカ・ベルグーオルスン

私は日本の食べ物が大好きです。とてもおいしいと思います。最近スウェーデンで「すしブーム」でした。いたる所にすし屋があります。でも，すしややき肉ややき鳥しかありません。

だから，私は日本で新しい食べ物を見た時，「食べたい」と思います。日本には新しい食べ物がたくさんあります・・・。

日本の食べ物は，スウェーデンの食べ物ととても違います。スウェーデンではいつもポテトを食べていますが，日本人はいつもご飯とラーメンを食べています。私はポテトがちょっときらいで，ご飯とラーメンが大好きです。

日本では，よく生の魚を食べます。ほかの国ではそんなことがありません。日本料理はあまくて，よく食べ物の上にマヨネーズがあります。スウェーデンではマヨネーズがあまり好きありません。でも日本では好きですよ！

日本人の行為

ヨナタン・エクマン

日本人はスウェーデン人に比べて，行為はすごくてちがう。スウェーデン人はがいしてしずかでしんちょうです。もちろん，もっと活発で社会的な人もいますけど，そんなひとはいつも活発で社会的な行為をしています。

こんなばあいには，日本人はスウェーデン人のはんたいと思います。日本人は，たいてい行為に2つのとくちょうがあります。さいしょは行為をこちょうします。いつもはずんでさけんでいます，元気すぎます。

何がきっかけで，行為がかわるのか分かりません。でもその行為の方が，さびしくてしずかでいるのより，とても楽しいと思います。

スウェーデン人と比べて，日本人はちょっとおかしいですが，やさしくて親切な人々がいると思います。

変な飲み物の国

サラ・フェカデ

日本には，おもしろい飲み物がたくさんあるから，新しいのを見ると，飲んでみたくなります。ある日，岐阜の駅の近くで「プリンシェイク」という飲み物を見つけました。「おもしろそうだ」と思ったので，買いました。

本当におもしろかったです・・・。カンの中にはかたいプリンが入っていて，飲むのは無理でした。また，味はちょっとまずかったです。それで「プリンシェイク」をすてたかったですが，ゴミばこがなかったから，ぜんぶ飲まなくちゃいけませんでした。

だれがこのような飲み物を発明しましたか。だれがこのような飲み物を買いますか。ほかの国にこのような飲み物がありますか。ないと思います。日本は本当に変な飲み物の国です。

浮かんでいる傘の国から感想

マッティアズ・フレドリックソン

雨は三日間ざあざあ降りつづけました。雨のせいで，たくさんのスウェーデン人は学校に行かなくて，授業の人数が少なくなりました。それで，授業が終わった後で，一人で学外研に帰りました。雨はついにやんで，豪雨の結果がよく見えました。完全にしずかで，形容するのがむずかしい雨のにおいが午後に残っていました。水を飲むために大学の近くにある川のそばに自転車を止めました。でも，飲まずに，じっと川に浮かんでいる傘を見ました。そして，この世界の果てしない美しさが分かりました。そのイメージはまだ心に残っています。その浮かんでいる傘は，この日本という国をきれいに表していました。日本は，一般的に言って，あの傘のように迷っています。水と浮かんでいる傘は現代の日本と昔からの文化のようにはっきりしたコントラストを作っています。いっしょにあっても，こういうことはしぜんにいっしょに存在できません。いつも相入れないので迷っているという感じがします。また，浮かんでいる傘は，私たちの日本の旅行を表しているとも言えます。私たちは傘のように「自宅」と比べるとぜんぜん違う場所にいます。いつも未知なものの近くにいて，それでもなんだかふわふわと浮かんでいる感じがします。こういう色々な理由で，このイメージはずっと心に残っています。

自動販売機

ペーテル・ジョンソン

日本には自動販売機があります。日本人はたぶんそれは普通だと言いますが，スウェーデンには自動販売機が少ないです。でも，どうして私は自動販売機が好きなのでしょうか。

日本の夏は，スウェーデンよりずっと暑いです。こんなに暑かったら，よく水や他の飲み物を飲んだ方がいいでしょう。また，自動販売機から出る飲み物は，いつも冷いか熱いです。

もし，ある日田舎を歩いているとします。コンビには少ないし，のどが渇いているし，少しねむくなると，ジュースが飲みたいという感情は非常に強くなります。スウェーデンでは，このことが時々起こりますが，日本では散歩をすれば，とても便利な自動販売機があるので，みんな大丈夫です。

スウェーデンにいる友達も，そのことについてのはなしあいで，とても便利そうと言いました。スウェーデンでも自動販売機が増えるといいんですが。

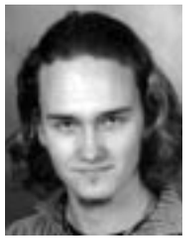
日本のＡＴＭ

ヨナス・カルデルスタム

日本に来る前，日本でクレジットカードがあまり使えないと聞いたんですが，本当かどうか知りませんでした。日本に来てから，やっぱり本当だと気がつきました。スウェーデンで，私はキャッシュをあまり使いません。

いつも千円ぐらいしか持っていません。しかし日本では，キャッシュがたくさんいりますから，よく新しいキャッシュを出さなくてはいけません。

スウェーデンならこれは問題ではありません。ＡＴＭからお金をいつでも出せますから。でも日本に来て，ビックリしました。日本のＡＴＭはどうして閉店時間があるんですか。これは本当に変だと思います。そしてすごく日本らしいと思います。



チューターと出会って

ヨーン・クリストファソン

日本はすごく楽しくて，きれいです。でも，私の心にのこる一番のけいけんは，しんせつな日本人です。また，日本人の中で，チューターたちは一番よく会った人なので，チューターたちといい友だちになりました。友だちといっしょに話したり，あそんだりするのは日本語をならう一番いいほうほうだと思います。日本人の話し方とじゅぎょうでならった日本語を比べたら，本当にちがうということがわかります。チューターたちのおかげで，日本についてたくさんならいました。また，日本の友だちができたことはもっといいことです。

私の心に残るこの一枚

エリク・クロンバーグ

郡上八幡に着いた時私はつかれていたけれど，ホームステイの家族に会うのを楽しみにしていました。でも，その日はすごく忙しかったので，会いた

かったのに待たされました。色々な所に行って，八幡の踊りをならってたのしかったので，時間が早くすぎました。そして，すぐあいさつする時になりました。その日，どんどんきんちょうが増えました。やっとホームステイの家族に会った時は，とても恥ずかしかったけれど，家族の一人の子は初めから私が好きになりました。お母さんもすごく親切なので，安心しました。

その週末は，いつまでも忘れられません。家族と川で滝まで泳ぎました。弟と温泉に入ったりもしました。この写真は郡上のお城の下で撮りました。それで，朝はお母さんのおいしいごはんを食べながら弟と話しました。帰る時は非常に悲しかったです。また行きたいです。

赤い温泉

エリン・クドウ

ぎふに来てから二週めに，私は友だちといっしょに温泉に行きました。その温泉はとてもきれいだと聞きました。でも私たちの地図は古すぎたので，道に迷いました。しかし，ついにその温泉を見つけました。ながら川のそばにありました。温泉の人はとても親切で，あんないしてくれました。はじめ，長い間体をあらいました。いろいろへんな日本のシャンプーをためしました。さいごにおふろに入りました。ちがうしゅるいのおふろが六つありました。私がいちばんきにいったのは，そこの鉄の色をしたろてんぶろでした。お湯は赤くて，においは血みたいでした。でもすごくきれいでした。そのろてんぶろに入っているあいだに景色を見ていました。何も考えませんでした。とてもくつろぎました。

しょどうをした時

ヨナス・リンドグレン

私はホームステイの土曜日，お母さんといっしょにおじいさんとおばあさんの家をたずねました。その家は大きいし，にわは木とせんすいがたくさんあるし，とてもきれいな家でした。おじいさんとテレビでさむらいばんぐみを見たあとで，たばこをすったり，しょどうをしたりしました。おばあさんはおちゃをつくってくれました。そのまえの日に，私はみんなの留学生としょどうをれんしゅうしました。「『火』をれんしゅうした」と言ったら。おじいさんがはけをかしてくれたので「火」と書いて，みんなに見せました。みんなは「とても上手」と言ってくれました。そのあと，おじいさんは私の名前をかんじで書いて，いろいろなことをおしえて，日本のむかしのせいかつひについて話してくれました。とてもたのしかったです。ながい間，れきしとぶんかについて話して，おちゃを飲みました。よる，おばあさんはきれいなしょどうとおちゃのセットを私にくれました。ほんとうに，二人は私の日本のおじいさんとおばあさんになりました。

ホームステイ

ヨハン・ルンドホルム

7月14日に，留学生たちはみんなぐじょうはちまんのホームステイへ行きました。そこで私はいふじさんという家族のところに4日間住みました。いふじさんのかぞくは6人です。山にある大きい家に住んでいます。子供の名前はのえちゃんとかいくんです。はじめ子供たちは私のことをこわそうだと思っていましたが，すぐにともだちになりました。家の近くには，にわとりがいました。毎日午前の五時ぐらいにそのにわとりが私をおこしてくれました。そして毎日子供といっしょにあそんだり，いろいろなところに行ったりしました。四日あとに帰りました。帰る時に，のえちゃんは私が帰るからないていました。私はとてもかんどうしました。そのとき，すこしさびしくなりましたが，このつぎ日本に来るときぜったいにあそびに行くやくそくをしましたので，しょうらいがすごくたのしみです。

日本人にとって豚は臭い？

オリバー・ルンドクイスト

私は結構前に，日本の映画を見ました。そこに，豚のような形をしたもので口から煙を出している物がうつっていました。私は「それなんだ！？」と思いましたが，しばらくしてもうその物のことを忘れていました。去年初めて日本に行った時に，ある店で同じような物を発見しました。私はその時に日本人の友達にその物の名前などを教えてもらいました。その物は結構伝統的なもので，「蚊取り豚」という名前だと知りました。この豚のような形の蚊取り豚は口からずっと後ろまで穴があいていて，その穴には蚊取り線香という特別な線香を入れて，火をつけます。そうすると線香からの煙が口と後ろの方から出ます。こういう煙は蚊にとって本当に嫌で絶対に近付かないということです。何で豚の形なのかよく分かりませんが，日本の文化では豚が臭い動物だと思われているからかもしれません。これは面白い物だと思って，買って帰りました。蚊取り豚を見るたびに，日本のことを思い出します。

流し素麺の経験

レナルト・ニエメレ

ホームステイの時，カメラの電池がなかなったので，自分で撮った写真がない。それで印象的な経験は今心の中だけにある。流し素麺を食べたのはいい経験だった。二回食べられてよかった。初めて白鳥市にある洞窟のそばで流し素麺を食べた。次の日，また山にある滝のそばで食べた。初めて見た時，とてもびっくりした。食べ方はすごく面白いと思った。それにとてもおいしかった。場所はどちらもきれいな自然に囲まれていた。私はホームステイのお兄さんと友達と友達のホームステイのお母さんと一緒に食べた。その友達も強い印象を受けた。ホームステイの経験の中でこの経験は私の一番印象深い思い出だろう。

いらっしゃいませ！

マックス・ニルソン

日本では，店に入る時，店員はいつも「いらっしゃいませ！」と言います。スウェーデンでは，店員はだいたいしずかなので，私は初めびっくりしました。また，日本では，店を出る時「どうもありがとうございます」と言って，ときどきお辞儀もします。本当に扱いがよいです。

店員がたくさんいる大きな店に入ると，ずっと「いらっしゃいませ！」に言われつづけます。たとえば，入り口に近い店員は「いらっしゃいませ！」と言って，ほかの店員はそれを聞くとおうむ返しで繰り返します。そして，ほかの店員もそれをきいて…。果てしないループみたいです。でも，店員はかわいそうだと思います。店員がいつも「いらっしゃいませ！」などと言わせられますから。

とにかく，スウェーデンへ帰ったら，多分こんな日本らしい行動は見られなくなります。

「どうもありがとうございまぁーす！」

本州は本州市？

トビアス・オルソヌ

スウェーデンでは　広大な土地に比べて，あまりたくさんの人々が住んでいません。これは日本と本当に違います。日本では，人々はどこでもすんでいます。

初めて日本に来た時，成田に着いて東京に行きました。たくさん家を見ました　けれど，東京はとても大きいので，たくさんの人が東京に住んでいるのは，あまりおかしいことではないと思いました。二日後，新幹線で岐阜に行きました。新幹線に乗っている時，いつも窓の外に家があるのを見ました。「良い交通手段があるから，家がどこにでもあるのは普通かなあ」と思いました。それはそうだけれど，でもやっぱりおかしいと思いました。

今，本当に分かります。本州は本州だけではありません。本州は「本州市」です。本州は全部一つの市のようです。でも，それでもいいです。私が会った日本人はみんな親切でした。

ホームステイの時

トマス・スーンヘデ

日本に来て，一番たのしかったことはホームステイでした。私の家族の名字は「むらつち」です。お父さんとお母さんとなつみちゃんとゆうせいくんととくまくんがいます。ぐじょうには，とてもきれいな家があります。二日目に私とお母さんとお父さんはやまというおんせんに入ったり，おいしい食べ物を食べたり，ビールを飲んだりしました。三日目に私とお母さんとなつみちゃんは，たきで写真をとったり，とてもおいしくて，ちょっと変な食べ物の「ながしそうめん」を食べたりしました。あとで，お母さんと私でたっきゅうのしあいをしました。お母さんはとても上手だから，かちました。ホームステイは一生に一度のことなので，いつまでもおぼえています。

日本のすもう

エーリン・ストリツベルグ

日本へ行く前に，すもうのことについてちょっと知っていました。スウェーデンのテレビですもうを見たことがありましたが，少しだけでした。日本へ来て，がくがいけんのテレビですもうを見ました。日本人はみんなすもうが好きそうでした。すもうについて話している人はとても元気で，いっしょうけんめい試合とおすもうさんについて話していました。

ある日，なごやにすもうを見に行きました。スウェーデン人の中で，だれもすもうを見たことがなかったから，どんなことがおきるのかわかりませんでした。本当にいい経験になりました。今はすもうのことが好きですから。

どうしてすもうはおもしろいと思いますか。まず，すもうはスウェーデンにはありません。ふつうのレスリングはありますが，すもうのようなレスリングがありません。次に，おすもうさんは本当にいんしょうてきです。だから，すもうはとてもおもしろいスポーツだと思います。

町の計画の遂行

クリステル・トング

まず，私がえらんだこの写真にかんして説明したいと思う。この写真は郡上八幡にいる間に郡上城で撮ってきたものだ。写真をみせたかった理由は，郡上市の町並みがモザイクみたいな形だからである。

それに，私はこの美しい景色に感銘したからである。

建物が不規則に配置し，形も様々であることは，スウェーデン人にとっておかしいことである。なぜなら，スウェーデンでは町並みが大抵同じ形で，どんな家を建てるかという規則が厳しく決められているからである。

次に，日本人はいつも組織されているように見える。例えば地下鉄で待っている時，みんなおとなしく並んで立っている。そして，エスカレーターを上る間，日本人は左側に立っている。このように行動は組織されているみたいなのに，町の計画はあまり組織ができていなさそうである。日本は着いた時，私は街の建物に少しびっくりしたが，今はこのような立ち方は魅力的だと思うし，ずいぶん慣れてきた。この写真に見える郡上市は日本の代表的な町として，日本らしい田舎を象徴していると思う。

おすもうについて

アレクサンダー・ワーノーフ

日本に来る前に，私はテレビでおすもうを見ただけでしたが，大好きでした。だから，サマースクールの間に，なごや場所に行けてうれしかったです。

アリーナの私たちの席からどひょうはちょっと遠かったけれど，私のカメラはズームがあるから，いい写真が撮れました。この写真は一番うまく撮れたものです。りきしはふとっているのに，じょうぶです。とてもかんどうしました。私は少しじゅうなんだと思うけど，りきしのしたことはぜんぜんできません。友達に写真を見せたら，「すごい」と言ってました。みんな試合はおもしろかったです。特に「たかみさかり」というりきしの試合はおもしろかったです。好きなりきしが試合にかったからです。このけいけんはとても楽しくて，いいけいけんだと思います。

日本の山河のきれいさ

マツ・ドーナ

日本は世界中で一番きれいな国だと思います。小さい国なのに，きれいな山河があります。日本のいたるところにはたくさん高い山や流れる川があります。とてもきれいです。私の出身はみなみスウェーデンです。そこの山河は全部農地なので，きれいじゃなくてちょっとつまらないです，岐阜県にはたくさん農地があっても，とてもきれいです。岐阜県の山は木で覆われています。その山はすごくきれいです。とくにぐじょうはちまんは，山河がすごくきれいです。たくさんいい写真をとりました。ホームステイファミリーの家はきれいな谷にありました。家のそばに川があって反対がわには山がありました。まいあさ，おきて，外に行って，「すごくきれいですね」と思いました。

日本のしぜんについて

フィリップ・フォン・プラテン

スウェーデンの自然は日本にくらべてとてもちがいます。まず，スウェーデンはへいたんな国です。とくに，スウェーデンのみなみはすごくへいたんです。へいたんなとちはたてものをたてやすいですね。しかし，日本はたくさん山と川がある国なので，たてにくいです。それに，日本ではてんさいがよくおこると思います。たとえばじしんやつなみです。

しかし，すみにくいしてんさいが多いのに，日本の人口は多いです。

日本人はぜんぜんあきらめません。いつもがんばります。たぶんりゆうは日本のたいへんなしぜんです。

ぐじょうはちまんのおしろからとったしゃしんは，いいれいです。どこにも山があります。だけど，ぜんぶのへいたんなとちはたくさんたてものがあります。このことはだいひょうてきな日本だと思います。

私の日本の文化の経験

アン・ビョン　ジョン

私のサマースクールの一番の思い出は，ホームステイです。日本のいろいろな文化を直接経験できたからです。おいしいものを食べたり，親切な方々に出会うことができて，本当にうれしかったです。特に，ホームステイ先のお父さんとお母さんと過ごした時間は，私の人生で忘れられない思い出になるでしょう。

暑い中を自転車で学校に行くことはつらかったですが，ホームステイに行ってからは，本当にサマースクールに来てよかったと思いました。それに，日本と韓国で少し違うところや，びっくりするほど同じところをたくさん見つけておもしろかったです。たとえば，日本のトイレの中にはゴミ箱がなくてこまった記憶があります。しかし，人に対する礼儀やつきあい方が似ていて，やはり遠くない国だと思いました。本当に，サマースクールはよかったと思うし，これからこの経験は，私の人生に役立つと思います。このような機会をつくってくださったみなさんに，感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

自転車と私

ジョ・アジョン

これは自転車の写真です。私にとって，自転車は特別な物でした。韓国では，自転車にあまり乗りません。自転車は小学校の時以来，乗った経験がありませんでした。岐阜大学のサマースクールに行ったら，自転車に乗らなければいけないということを初めて聞いた時，小学校の時のように楽しい気持ちで乗れたらいいなと思いました。でも，日本に来て自転車をもらった時，最初大きな問題にぶつかりました。自転車が大きすぎたのです。サドルを一番下まで下げましたが，足が地面に届きませんでした。

問題はまだたくさんありました。道には車がたくさん通っているし，坂もけっこうありました。去年の留学生が道で転んだことを聞きましたから，もっと心配になりました。

日本は韓国と車が走る側が反対です。頭では知っていましたけど，習慣てきに道を渡ります。それで自転車に乗って走る時，まず右を確認しなければいけませんでしたが，左しか確認しませんでした。それで何回か事故に巻き込まれそうになった時もありました。

雨が降っている時とか，くらくなった時には，もっと大変でした。夜には何も見えませんでした。ただ自転車の弱い光を注意して走らなければなりませんでした。雨が降った日もたいへんでした。雨がずっと目にはいってこまったんです。日本人は傘を持って自転車を乗ることができますけれど，へたな私に無理でした。

それで最初，自転車に乗ることが怖くて死にそうな気分で走りました。でも，今は自転車は一番便利な物になりました。今は韓国に戻っても，自転車に乗りたいと思います。

郡上おどり

ジン・ヘミ

私の心に残る一枚の写真は‘郡上おどり’に行った時撮った写真です。この写真は，7月16日郡上八幡の上殿町でとりました。特に見てほしい部分はないです。全体的な雰囲気を見て下さい。

7月16日の夜，ホストファミリーのお母さんが「ゆかたを着て一緒に行かない」と仰ったので，家を一度出ましたが，最初はあまり行きたくなかったです。郡上おどりを習う

時，本当におかしい文化だと思ったからです。

しかし，人が集まっておどるのを見た後では考えが変わりました。皆楽しそうな顔をして，歌を唄いながら楽しくおどっていました。韓国にはない風景だったので，もっと印象的だったのかもしれません。韓国の友だちも写真を見てすごい！すごい！とずっと言いました。

本当にいい経験でした。あの日の楽しさは絶対忘れられないとおもいます。

私の心に残るこの一枚

イ・スン　ヨン

サマースクールに来て，毎日が私には特別な日々でした。それでも，その中でいちばんおもしろくて，思い出に残ることは郡上八幡のホームステイでした。はじめホームステイをする前には，「いくら日本と韓国が似ている部分多くても，生活の方式とかいろいろな面で，確かに違うから，その文化の違いによって，たいへん失礼なことをするかもしれない」とか，「失敗をしたら，どうしよう～」ととても心配しました。そして，何よりも日本語がうまくないから「伝わらなかったらどうしよう・・・」と心配しました。しかし，ホームステイを始めてから，そんな心配はすっかり消えてしまいました。ホームステイ先の方々が本当にいろいろたくさん気を遣ってくださって，とてもありがたいと感じました。そして，まだ日本で経験したことのなかったこととか，やりたいことをさせていただきました。初日はデパートとリサイクルの店で買い物しました。本当に珍しくて，おもしろい経験ができました。次の日はお父さんが学生たちのすもうの訓練のすがたを見せてくださいました。前にすもう競技場ですもうの試合を見ましたが，近くですもうを見られて，とてもたのしかったです。そして，湯の平温泉へ行きました。露天風呂は初めてですから，ちょっと恥ずかしかったですが，あとは自然にお風呂を楽しみました。ホームステイ先の方々が韓国へよくいらっしゃっていたので，韓国への関心がふかくて，いろいろなことを知りたがっていました。だからいろいろなことを教えてあげました。韓国人として，誇りを感じました。とても短い時間でしたが，サマースクールのホームステイはサマースクールの中，いいえ・・・，私の人生でいちばん大切で，すばらしい経験でした。

郡上八幡の経験について

イ・ウィ　ズン

日本に来るまえから，一番たのしい経験は，郡上八幡に行くことだと思ってました。やっぱりとてもたのしかったです。

郡上の経験の中で郡上おどりとホームステイが一番たのしかったです。おどりが始まった日の夜，おどる場所に行って，日本人とほかの外国人と一緒におどりができて，すごくたのしかったです。私の考えですが，3週間のプログラムの中で一番日本らしい文化だと思いました。それに，おどりをするのは，簡単でおもしろいと思いました。

韓国は，こんな文化がないです。日本にはたのしい伝統文化がまだあるので，ほんとうにうらやましかったです。あとで，またおどりが見られたらいいなあと思っています。

ですから，郡上おどりは一生の間わすれられない印象に残る思い出になると思っています。どうもありがとうございました。

まとめの会とアンケート集計結果報告

8 週間コース参加留学生	ルンド大学（スウェーデン）	23 名
3 週間コース参加留学生	ソウル産業大学（韓国）	5 名
	計	28 名

サマースクールの最終日はいつも「まとめの会」と称して，プログラム全体について学生から意見を聞くことにしている。今年もさまざまな意見が出されたが，チューター役の岐阜大学生２名（チューター・リーダーの杉山まなかさんと４年続けてチューターをやってくださった鳥居美由紀さん）が自発的に出席してくれ，彼等からのインプットがあったのは，大変参考になった。

以下のアンケート調査の結果と学生からのコメントでわかるように，おおまかには例年の結果と同じようなものだが，１点大きく違っているのは，「刀研ぎ」に対する評価である。地元の伝統芸能・技術という視点から長年，刀研ぎを見学先に選んできたが，今年の評価はいつになく厳しかった。理由の一つは，2004 年まで御自宅で見学させてくださっていた岐阜県無形重要文化財の伊佐地さんが亡くなり，今年は博物館でのデモンストレーションのみであった点かと思う。いずれにしろ，「刀研ぎ」は趣味の違いが大きく影響するものなので，28 人全員を満足させることは期待できないが，見学先としては見直しの時期に来ているのかもしれない。

各項目で「悪かった」と回答した率も，ほぼ例年通りだが，日本事情講義に対する評価が厳しいのは気になるところだろう。ただし，この結果は慎重に分析する必要がある。たとえば，日本事情講義を欠席した学生も多く，天候によっては 5,6 名しか出席しないという時もあった。したがって，「日本について多く学べましたか」の質問に「悪かった」の回答が 42.9％である理由は，授業を欠席したため学べなかった，したがって，「悪かった」となる要素も考慮すべきである。

もう１点は，日本事情講義で使われる日本語レベルと，日本語学習歴１年程度の参加者の日本語能力とにギャップがあるため，「わからない」から「悪い」になることであろう。現に，参加者と一緒に一部の日本事情講義を聴講した「日本語・日本文化研修」留学生達が「おもしろかった」と高い評価をしたのに対し，サマースクール参加者の多くは「むずかしい」と感じたようである。明らかに日本語レベルの差によるところが大きい。解決策として，日本語レベルの高い参加者に絞ってはどうかという考え方もあろう。しかし，サマースクールは日本／岐阜を紹介するプログラムであり，参加学生も日本語学習歴１年程度の学生を対象としている。このプログラム参加を経て，１年の交換留学生として再度岐阜大学に留学希望する学生が年々増えており，導入・広報のプログラムとしての意義を十分果たしていると思う。したがって，日本語レベルの高い学生対象にサマースクールを実施するのではなく，従来通りの学習歴１年程度をターゲットにしてこそ，サマースクールの存在意義があると考える。

それでは，日本事情講義の内容を参加者の日本語レベルに合わせて下げてはどうかという意見があるかもしれない。しかし，語学レベルがそのまま本人の知的・文化的レベルを反映するのではないことは言うまでもない。優秀な学生達の日本語能力が不十分であっても，「本物」に接する機会を与えることによって，刺激と意欲をかき立てる意義は大きい。「本物」志向にこだわって，本年度は能・狂言研究の専門家である林先生に講義をお願いし，観世流能のシテ方として御活躍の味方先生・田茂井先生に実演と手ほどきをお願いした。数百年の歴史を積み重ねてきた能を 90 分の講義で理解できると期待する方が愚かなのだが，「良かった」と評価する学生が 57％いたと理解すれば，期待以上の高い評価だとも言える。

本年度の結果のように「良かった」が 57％，「悪かった」が 42.9％というように，評価が二分されることをどう解釈するかが，今後のサマースクール運営の鍵となる。サマースクールの日本事情講義の理念を，知的・

文化的レベルを下げない日本事情講義と設定すること，その枠内で配付プリントや準備に工夫をして，できるだけ理解度を広げ／深める努力をすることで，紹介・導入プログラムでありながら，高い知的・文化的レベルのサマースクールというイメージを維持できるのではないだろうか。2003–4 年にかけて，追跡調査を行った結果，言葉の壁にもかかわらず日本事情講義は「必要である」という回答がルンド大学から得られたことも忘れてはならない。

日本語の授業について（右のカッコ内パーセントは 2004 年度のもの）

1　日本語プログラムの構成（午前・授業，午後・自習）について

9.1%　非常に良かった　（22%）
77.3%　良かった　（67%）
13.6%　悪かった　（11%）
0%　非常に悪かった　（0 %）
コメント：よかったですけど，あさがよわい人（私）はちょっとたいへんです。

2　クラスで使用した教科書・教材のレベルについて

9.5%　非常に良かった　（16.7%）
76.2%　良かった　（50%）
14.3%　悪かった　（33%）
0%　非常に悪かった　（5.6%）
コメント：ちょっとやさしかったです。

3　日本語教授法について

13.6%　非常に良かった　（11%）
77.3%　良かった　（67%）
9.1%　悪かった　（22%）
0%　非常に悪かった　（0 %）

4　日本語の授業時間数について

9.5%　非常に良かった
52.4%　良かった
33.3%　悪かった
4.8%　非常に悪かった
コメント：でも 8 時 50 分は早すぎるよ

日本事情講義について

1　日本語授業とは別に日本事情講義があることについて

18.2%　非常に良かった　（28%）
59.1%　良かった　（61%）
18.2%　悪かった　（11%）
4.5%　非常に悪かった　（0 %）

2　日本事情講義を通して日本について多くを学べましたか

19％　非常に良かった　（39％）
38.1％　良かった　（44％）
42.9％　悪かった　（17％）
0％　非常に悪かった

3　日本事情の講義内容（日本の美術，日本の経済，すもう，能の講義と実演指導，郡上八幡，日本の伝統）について，よく理解できましたか。その他に学びたい内容がありますか。

26.1％　非常に良かった
47.8％　良かった
26.1％　悪かった
0％　非常に悪かった
コメント：よくそんなじゅぎょうにねて，すいません。

4　日本事情講義の回数

9.5％　非常に良かった　（22％）
90.5％　良かった　（67％）
0％　悪かった　（5.6％）
0％　非常に悪かった　（０％）

5　日本事情講義の講義に関する教授法について

9.5％　非常に良かった　（17％）
52.4％　良かった　（61％）
33.3％　悪かった　（17％）
4.8％　非常に悪かった　（０％）

見学旅行について

1　見学旅行の回数について

23.8％　非常に良かった　（28％）
61.9％　良かった　（72％）
14.3％　悪かった　（０％）
0％　非常に悪かった　（０％）

2　見学・旅行のスケジュール

4.8％　非常に良かった　（16.7％）
85.7％　良かった　（66.7％）
9.5％　悪かった　（16.7％）
0％　非常に悪かった　（０％）

3　今回の旅行地に関して感想・意見があれば書いてください。また今回の旅行地以外で行きたいところがあれば書いてください。

刀研ぎ（ルンド大学生のみ）

＊面白くなくて退屈でした

＊あまりおもしろなかった。
＊まあまあだった。
＊本当はちょっとつまらなかった。それにかじばを見られなかった。
＊かなり期待したが，がっかりしました。
＊わるかった。
＊あまり見られなかったから（刀の作り方）ちょっとがっかりしました。
＊おもしろかったです。
＊ちょっとつまらなかったです。
＊なくてもいい，あまりおもしろくない。

相撲（全員）

＊すごくたのしかった。
＊テレビで見たことがありますが直接見るのはもっとおもしろかったです。
＊いいけいけんになった。
＊楽しかった！！
＊実際に見るのは本当に良かったと思います。
＊おもしろかった。
＊すごくよかったです。
＊本当にすごく楽しかったです。
＊ぜんぜんしらなかった。日本の相撲を見てほんとうによかったです。
＊さいこう！

郡上八幡（全員）

＊好きな日本の経験です。
＊一番!!
＊まあまあでした。
＊ひじょうによかった。
＊とてもいい経験だった。みんなこのホームステイをした学生はいつもホームステイについていいことと言うばかり。一番楽しかった見学旅行だろう。
＊思ったより楽しかった。色んな事を体験出来て嬉しいです。
＊とてもおもしろかった。
＊一番よかった経験でした。
＊Ｈｏｍｅｓｔａｙサイコだよ。
＊とても楽しかったんです。
＊ホームステイが非常によかったです。
＊よかった。

京都（全員）

＊嫌いな旅行です。
＊もうすこし時間があればよかった。
＊あつすぎだったです！せっかく京都に来たからちゃんと見よう！と思いましたけど，あつくてよくできなかったです。でもたのしかったでした。
＊あつかった。
＊面白かったがフリータイムがなかった。たくさんお寺や神社を見たがぜんぜん京都のまんなかを見なかった。それでまだ本当の京都を見ていない・・・。
＊まあまあでした。色んな所をすごく短い時間に行ったから頭が混乱しました。
＊よかった。
＊わるかった。

＊あつかったけど，たくさん見たからよかった。
＊楽しかったです。
＊あついでしたけど行きたいところでしたからよかったです。
＊お寺を見るのは一日だけでじゅうぶんです。

郡上八幡でのプログラムについて

44.4%　非常に良かった
44.4%　良かった
11.1%　悪かった
　0%　非常に悪かった
無回答　1名

プログラム（茶道，書道，紙細工，座禅，ホームステイ）についての感想・意見を詳しく書いてください。

＊ちょっといそがしかったが，いっぱんてきにこのプログラムはいいけいけんになりました。
＊日本の伝統てきな文化を理解できるいい機会だったと思います。でも，プログラムの時間が短くてちょっと残念でした。
＊ぜんぶもっとながくしてほしいです。
＊ぜんぶよかった。

茶道

＊面白かった
＊大変でしたが，楽しかったです。
＊一番よかった。

書道

＊新しかった
＊おもしろかった（先生かっこよかった）
＊とても大変でした
＊むずかしかった

紙細工

＊すごかった
＊楽しかったです
＊いみがなかった

座禅

＊くつろげたよかった経験だ。
＊おもしろかった。
＊きびしかったけど，少し日本の心を感じられました。
＊たいへんでもおもしろかった。

ホームステイ

＊大好きでした
＊家族は親切でいっしょにいった時は一番楽しかったです。
＊よかったんですけど，もっとながくしてほしいです。

岐阜大学学外宿舎とチューターについて　（全員）

1　宿舎の設備について

22.7％　非常に良かった　　（16.5％）
36.4％　良かった　　（67％）
31.8％　悪かった　　（11％）
9.1％　非常に悪かった　　（5.5％）

宿舎にあるとよいと思われる設備があれば書いてください。

＊ふとんはべんりだけど，ベットとエアコンが欲しかった。
＊カラオケ
＊国際電話がほしいです。家に電話しに行く道が遠いです。
＊あのひどい坂です。
＊どうして 22：00 のあとたっきゅうがいけないか？
＊インターネット

2　チューターが宿舎にいることについて

61.9％　非常に良かった　　（44.4％）
38.1％　良かった　　（38.9％）
0％　悪かった　　（16.7％）
0％　非常に悪かった　　（０％）

3　チューターは助けになりましたか。また，チューターからどんなサポートがあったらいいと思いますか。

52.4％　非常に良かった　　（33.3％）
47.6％　良かった　　（50％）
0％　悪かった　　（16.7％）
0％　非常に悪かった

大学の施設について　（全員）

1　サマースクール期間中に使用した大学の施設を書いてください。

図書館　ＩＭＣ　郵便局　食堂

＊教室はいつも暑かった。たぶん来年もっとさむい教室を使ったらどうだろう。
＊書きたくない・・・
＊教室はあつすぎたんです。
＊エアコンが入ってよかったです。
＊コーラーがひつようだ！
＊よかったです。
＊よかった　エアコンが大好き。
＊よかったがあつかった。

サマースクール全体について

1　このサマースクール全体的な評価について

28.6％　非常に良かった　　（50％）
66.7％　良かった　　（38.9％）
4.8％　悪かった　　（11.1％）
0％　非常に悪かった　　（０％）

2　今後のために，提案や意見があれば書いてください。

＊てんきがあついからたいへんですけどとてもたのしかったです。本当にありがとうございました。機会があったら summer　school　にもう一度来たいです。
＊みんながしたしくなれる program があったらいいと思います。宿舎にむしがたくさんあってちょっとよくなかったです。むしをなくしてください。
＊日本じじょうをもっとかんたんにしてください。
＊心からありがとうございました！このサマースクールは本当にすごく楽しかった経験！また留学の時かもしれないね！みんな先生，お元気で！
＊先生の人数をちょっと減らしたらいいと思うんですが。
＊完璧です。
＊日本は暑すぎる。冬のプログラムのほうがいい。
＊ありません。
＊みんなが親しくなるプログラムをつくってください。
＊ぜんぶはほんとにたのしかったです。

グリフィス大学

●オーストラリア　グリフィス大学参加者名簿

日程：平成 17 年 8 月 27 日から 10 月 2 日（5 週間）

所　　属	氏　　名
応用生物科学部　食品生命科学 2 年	片桐　　舞
地域科学部　地域科学科 2 年	加藤　　彩
応用生物科学部　生産環境科学 1 年	加藤　　友崇
応用生物科学部　食品生命科学 2 年	河村　奈緒子
教育学部　社会科（法律・経済）2 年	鈴木　　麻衣
教育学部　社会科（法律・経済）2 年	田中　実菜美
応用生物科学部　獣医 1 年	西谷　　由莉
応用生物科学部　食品生命科学 2 年	服部　　朋香
教育学部　社会科（法律・経済）2 年	林　　恵理子
工学部　生命工学科 2 年	森田　　健介
工学部　機能材料学科 2 年	米川　　紘輔

ホームステイでの日々

＜ホームステイ＞

私のホストファミリーは４人家族で,５歳の女の子と３歳の男の子がいました。一言で言うと,理想の家族！子どもたちはかわいいし，お父さんとお母さんは仲良しだし。とても明るくて楽しい家庭でした。大好きな家族です。

私の家では，帰りが遅くなるときは電話をすること以外に特にルールはありませんでした。「家族の一員なんだから何でも好きなように使っていいよ」とよく言われました。

学校から帰ってから寝るまで，部屋にいるとき以外はほとんど子どもたちと遊んでいて，いつも幸せな気持ちになれました。５歳の子は私に対してゆっくり話してくれて，英語を教えてくれたりもしました。週末にはいっしょに公園に行ったり，動物園に連れて行ってくれたりしました。

家族と話すのは，大学で留学生同士で話すのとは全然違って速くて理解できないこともありましたが，わかりやすい表現に変えてくれたりしたので会話することができました。ご飯のときにする会話が楽しかったです。授業では習わないような自然な表現などを知ることができると思います。

家から学校は少し遠かったけれど，そんなこと全く気にならないくらい本当に毎日が楽しかったです。この家族と出会えたことが，私のオーストラリアでの５週間をこれだけ素敵なものにしてくれたのだと思います。

（片桐　舞）

＜ホームステイ＞

私がホームステイした家は一人暮らしの女性の家だったので，仕事が忙しく，私が帰っても誰もいなかったり，もう寝ていたり，すれ違うことがよくあった。あまりに時間がないので，日本の食事を作ってあげたり，食事を一緒に作ったりもした。けれど，時間がないからこそ会える時間を大切にしてくれ，オーストラリアの生活について教えてくれたり，相談にのってくれたり，少ない時間でいろいろなことを話した。言いたいことが英語にできず，もどかしい思いを何度もした。でも助けを得て，なんとか楽しく会話が出来たときは本当に楽しかった。

（林　恵理子）

＜ホームステイについて＞

初めてのホームステイに，始めは少なからず緊張していたのを覚えています。それというのも，ホームステイには当たり外れがあると聞いていたからです。実際，生徒の受け入れを収入源とし，生徒のことはほとんど考えず事務的にこなすだけの家もありました。これは僕のホームメイトの友達の話であって，今年岐大からサマースクールに参加した 11 人の中には，そのような家庭はなかったようです。

ホームステイと聞くと，現地では至れり尽くせりで休日にはファミリーがどこかへ連れて行ってくれると考えている人もいるでしょう。しかし，ホームステイはあくまでも家族の一員であり，特別扱いはされないということを感じました。でも，逆にその方がずっと親近感が沸いてくるとも感じました。とは言うものの，友達の話を聞く限り，僕がお世話になったファミリーはかなり特殊な家庭であったとは思います。５週間のうちでファミリーとどこかへ出かけたことは一度もないし，家での私生活に関しては，基本的にはすべてが by

yourself の家庭でした。Mom がしてくれたことといえば…夕飯を作ってくれたことくらいでしょうか（笑）。普通はお昼ご飯もホストファミリーが用意してくれるのですが，家の場合は多めに作ってある夕飯を自分で弁当箱に詰めたり，勝手に好きなものを作るというのが常でした。まぁ手軽にできるということで僕はよくサンドウィッチを作っていました。家に帰る時間も，夕飯までに電話さえすれば何時に帰ってもよかったし，お腹が減れば勝手に冷蔵庫のものを使って好きなものを食べることができました。とにかく何をするにも自分の好きなようにできました。ほとんどすべてが by yourself という家庭は確かにめずらしかったようです。あまりにも自由過ぎる家庭は，何をどうすればいいのか分からないので最初は戸惑うこともありましたが，自由奔放を好む僕にとっては最適でした。ホームステイをしてみたいと考えている方，中にはこのような家庭もあるのだということを知っておいてください。

僕がステイしていたファミリー構成は Papa，Mom と息子二人に，お兄ちゃんの彼女，ホームメイトが二人という大家族でした。ホームメイトは，中国人の男の子と韓国人の女の子でした。みんなとても優しくて，本当にいい人たちでした。僕が困っていたときには親身になって話を聞いてくれたし，言いたいことをうまく伝えられなかったときも，最後まで話を聞いてくれるだけでなく，逆に僕の言っていることを理解しようと一生懸命になってくれるほどでした。また，僕にとって一番よかったことは，Mom が先生になってくれたことです。どういうことかと言うと，最初の日に「日常会話で間違った文法を使っているときには，その場ですぐに訂正してあげますよ。」と言ってくれ，それがとてもいい勉強になりました。他にも，中国人のホームメイトが「Ken の英語力はまだまだだから，とにかくたくさん話すことが一番の練習になるよ。」と言って，たくさん話しかけてくれました。

ホストファミリーには本当によくしてもらったので，日本に着いてすぐにメールを送りました。

（森田　健介）

＜ホームステイについて＞

私ははじめ他のファミリーにステイする予定だったのですが，そのファミリーの都合がつかなくなってしまったので，出発前日に急遽今のファミリーにステイすることが決まりました。突然のお願いにも関らずファミリーは皆とても優しく私を迎えてくれました。

私のホストファミリーはファーザー，マザーのほかにインドネシアからの留学生の女の子が二人いました。ファーザーとマザーの間には二人の娘がいるのですが，二人とも独立してもう一緒に家には住んでいませんでした。でも，よく遊びに来ていたので何回か会って話をすることができました。また，ファーザーとマザーは動物好きで，犬と猫とインコ，熱帯魚を飼っていました。皆とてもかわいくて，猫と私は同じ部屋で寝ていました。猫は朝，私を起こしてくれたこともあります。また，ファーザーと一緒に熱帯魚を見ながら話をするのが私は大好きでした。

私のホストファミリーはもう 10 年くらい留学生を受け入れていて，岐大からのサマースクール生も受け入れたことのある家族でした。しかし，受け入れに慣れているからといって事務的になるという事は全くなく，純粋に人と接するのが好きなとても優しい家族でした。

生活については，まず私にはクイーンサイズベッドのある，こんなにいい部屋に住ませてもらっていいのだろうかと思う位快適な部屋が用意されていました。その部屋の横にはトイレとシャ

ワールーム，洗面台がついていて自由に使うことができました。しかし，家にはもう一つシャワールームがあって一度に両方を使うことはできないので，誰かが使っているかどうかの確認だけ必要でした。家の中では土足でも裸足でもどちらでもOKでした。朝食はシリアルかヨーグルト，トーストから好きなものを選んで自分で用意するという形でした。昼食と夕食はマザーが毎日作ってくれました。肉がやはり多かったですが，ほぼ毎日野菜も用意されていました。マザーが作ってくれる料理はどれもとてもおいしくて大好きでした。量はだいたいが自分で好きなだけを皿にとるという形だったので，自分に合わせて調節することができました。後片付けはインドネシアの子たちと私の三人でやることが多かったのですが，食器は食器洗浄機で洗うのでとても簡単な片付けでよかったです。また，洗濯はシャワールームの近くにあるカゴに洗ってほしいものを入れておけばマザーがきれいに洗濯をしてアイロンまでかけて私に返してくれました。テレビやDVDも自由に見ることができ，飲み物も好きなときに自由に冷蔵庫から持っていって飲むことができて，本当に快適な生活を送ることができました。あと，朝は自分で起きることがほとんどでしたが，私は寝起きが悪いので，マザーはいつも目が覚めやすいようにと紅茶を作って部屋まで持ってきてくれました。夜はだいたい10時から11時くらいの間に寝ることが多かったです。その頃には皆ほとんど寝てしまっているのですが，たまにテレビを見て笑うファーザーの笑い声が聞こえてきました。その声を聞いて私はいつも楽しい気分になっていました。

ステイ初日，ホストファミリーは私に「寝る時や勉強するとき以外はリビングに来てみんなで話そう」と言ってくれました。初めはその言葉に素直に甘えることができず自分の部屋にこもってしまいましたが，少し勇気を出して部屋から出るようにしたら，後の日々はリビングでファミリーと話をしたり，一緒にDVDを見るなど本当に楽しく過ごすことができました。宿題を手伝ってもらった事もあれば，リビングでみんなと水のかけ合いをして遊んだこともありました。私の英語はリスニングもスピーキングも本当につたないものでしたが，皆私に分かりやすいように話してくれたし，私の話もよく聞いてくれました。私が，「英語がうまく話せなくてごめんなさい」と謝ったとき，ファミリーは「そんなことは関係ない。だって私たちは日本語が話せないし，それに英語が話せなくても一緒に楽しく過ごすことはできる。」と言ってくれました。英語が上手く話せなくても，私にとってファミリーと過ごす時間はとても楽しくて，一瞬一瞬がとても大切なものでした。特別なことをしなくても，ファミリーといるだけで幸せな気持ちになれました。ホームステイで楽しく過ごすためには，自分からファミリーに接していくことが大切だと思いました。

ファミリーと過ごした5週間は本当に短く感じ，もっともっとファミリーと過ごしたいと思いました。5週間という短い期間だったけれど，私はホストファミリーを本当の家族のように感じました。「これからやっていけるのかな…」と思った事もありましたが，それは初めだけで，今では逆ホームシックになる程です。ファーザーとマザーとは日本に帰ってからもメールでやりとりをしています。また，いつか休日に家に遊びに行くことと，新婚旅行にブリスベンに行って家族を紹介することを約束しました。ホストファミリーとどう過ごすかは，サマースクールを楽しくする大きな要素のひとつだと思います。これからサマースクールに参加する人にもファミリーとの時間を楽しんでほしいと思います。

（鈴木　麻衣）

大学・クラスについて

＜大学について＞

グリフィス大学のキャンパスはNathanとMt.Gravattの2つがあります。両方とも山の中にあり，とても自然の豊かなところです。カラフルな鳥，大きなトカゲ（危害は加えません），それに私は見つけられなかっ

たけれど，まれにコアラも見られるようです。

大学の設備は，大きな図書館やコンピュータルーム，ポストオフィス，カフェなどがそろっていたため，不自由しませんでした，ただ，オーストラリアは 5:00 頃店を閉める習慣があり，大学内のお店も早く閉まってしまうところがありました。コンピュータルームはインターネットやメールなど，自由に使えます。私はあまり使わなかったけれど，他のメンバーは日本の家族や友達によくメールをしに行っていました。キャンパスは岐大とは比べものにならないくらいキレイで広くて，とても環境のいいところです。グリフィス大学で充実した 5 週間を過ごすことができました。

（河村　奈緒子）

＜学校＞

サマースクールメンバーは ELICOS というプログラムに参加することになりますが，去年までは Nathan キャンパスで，今年から隣の小さい Mt.Gravatt キャンパスになったようです。Nathan に比べて郵便局はない，カフェは少ない，人も少ないというキャンパスでしたが，バスがとても便利という利点はありました。クラスは違っても建物自体は一緒だったので，休み時間や帰りなどはサマースクールのメンバーに簡単に会うことができました。校舎内やお昼を食べるラウンジのようなところでも，あまり Aussie は見ませんでした。見かけるのはほとんどがアジア人。現地の人と仲良くなりたいなら，サークルに一時的に入ったり，学校主催の Activity（海に行く！，ハイキング，ダンス，ダイビング…etc といったものが，毎日のように行われている）に行ってみるのがいいのではないでしょうか。

（田中　実菜美）

＜クラスについて＞

僕のクラス 3A は中国 7 人, 台湾 3 人, 韓国 4 人, 日本 2 人, コロンビアと UAE が一人の 18 人のクラスでした。ELICOS は 10 週で一区切りなので, 僕たちは 6 週目から New student として入りました。最初はみんなのしゃべりがとてもうまく感じて，返事をするにもうまく言葉が出なくて焦りました。一人のクラスメイトから「君の英語はわかりづらい」というようなことを言われたときは，結構ショックで日本に帰りたいと思っていました。そういう訳で，最初の三日間くらいは結構つらかったです。でも，食べ物や音楽といったことから会話が始まって，最初はぎこちない会話がだんだん話せるようになってきました。最後の週はちょうどみんなと仲良くなれて，とってもおもしろい時期だったので，終わってしまうのは本当に残念で仕方なかったです。あと台湾，中国の人とはよく漢字を書いて話をしました。自分の名前や地名を漢字で書いて教え合いました。漢字で意味が通じることも多いので，彼らは興味をもってくれると思います。彼らは日本の音楽，漫画，ファッションといった若者文化にとても興味をもっています。むしろ，僕よりも彼らのほうが詳しいと思ったほどです。授業は，日本のように文法の説明を英語でしたり，ハリケーンカトリーナのニュースを見て聞き取りをしたり，あるテーマについてディスカッションしたり，洋楽を聞いたり，ゲーム形式のものから…その他いろいろしました。Language Lab では，自分の話しているのを録音して後から聞いたり，Computer room ではネット上から答えを探したり。また自分でやりたいことを選択できる時間もありました。クラスの雰囲気は生徒が気軽に言いたいことを言いやすいようなとっても楽しい雰囲気でした。ジョークを言っても先生は受け入れてくれ，日本でも少人数でこうだったらいいのにと思いました。ただ，そういった自由な反面よくないこともありました。朝みんながそろわないのは当たり前だったし，途中で帰ってしまう人もいました。一度，休み時間が終わって 40 分も経っているのに帰ってこなかったことので，先生が激怒したこともありました。さすがにその日は反省していたようでしたが…数日経つとぜんぜん懲りていない…。でも，個人的には日本のキチキチの一方的な授業よりもよっぽど居心地良かったです。

クラスメイトやホストメイトとの交流は僕にとって貴重な体験になりました。行く前までの僕は外国の人と仲良くなったことはなく，外国人＝宇宙人のような感じに思っていました。彼らと仲良くなって，知るようになって，何より楽しいし，自分とそっくりなところもあって，一方，日本人にはない良い面をみることができ，国際結婚する人の気持ちも少しわかるような気になりました。これは僕にとってはすごい発見でした。これから日本で外国人をみても仲良くなりたいと思うでしょう。

最後に，最初はいきなりクラスに入れられ緊張しますが，まずは隣に座っている人から，うまく話せなくても単語でも思ったことを言ってみるといいと思います。　**（米川　紘輔）**

＜クラスについて＞

僕たち岐大からの学生は，全員 General English という日常会話を中心に学んでいくコースで５週間を過ごしました。

まず初日に，クラス分けテスト（テストとは言っても，先生たち自身かなり気楽な感じでしたが）が行われ，１～５まであるレベルの中で，僕は GE の 3B というクラスになりました。レベルが４や５になると，周りの人もかなりハイレベルになるようです。

僕のクラスは，18 人中，日本人は自分を含め２人だけで，半数以上が中国語を話す人たちの中で勉強していました。そのため，休み時間ともなれば中国語のオンパレード！クラスに馴染めない内はそれがものスゴく嫌でしたが，次第に英語で中国語を教えてもらったりするなど，なかなかおもしろい経験もできました。

レベル３とは言っても，みんなは日常会話はペラペラに近かったので，最初は本当にキツかったです。また，中国訛り，韓国訛り，中東訛りとそれぞれ特徴のある英語の発音に，初めの１週間はまったくと言っていいほど聞き取れなかったです。そんな調子なので，当然会話のキャッチボールなどできるはずもなく…とても悔しい思いをしました。１日中ほとんど英語だけの会話は，慣れるまでは本当に疲れるなぁと感じていました。たまに日本語が恋しくなることもありましたが，それでも悔しさが消えず，日本に帰りたいと思ったことはありませんでした。

2，３週間頑張っていたら耳は慣れてきて，大分授業にはついていけるようになりましたが，話す方はまだまださっぱりでした。そんな中で感じたことは，Grammar が得意な日本人には授業内容自体はそこまで難しくないということでした。授業内容は各クラスの先生により若干異なるようですが，僕にはゲームを中心にして楽しみながら学んでいくスタイルが新鮮でした。各クラス，２人もしくは３人の先生が交替で教えてくれました。また，日本ではあまり見られませんが，コンピュータを使った授業が週に２回あり，僕はリスニングを中心にやっていました。これは自分が納得のいくまでリピートをすることができたので，とても好きでした。また，最後の週にはクラス分けのテスト（これもやはり日本のような堅苦しいものではなかったように思えます）があり，この成績がよければ次のタームで上のクラスに上がることができます。ただ，僕たちがいたときに偶然新しいコース（GE と Academic の学生が混在し，生徒にとっては選択性が増え，より切磋琢磨勉強ができる環境と言えよう）ができたようなので，来年のサマースクールでは，また何か変わってくるかもしれません。

この滞在中で一番成長したと実感できたのは，１ヶ月が過ぎ，５週間目に突入したころでした。今までは簡単な返事や受け答えしかできなかったのが，拙いながらも自分の意見を言ったり，反論をすることができるよ

うになったのです。それからは，クラスメイトとの会話もグンと増え，一緒に遊びに行ったりBBQをしたりと，本当に楽しかったです。最後には，ブリスベンの夜景のポスターにクラス全員が寄せ書きをしてくれて，マジで泣きそうでした！

（森田　健介）

＜クラス＞

クラスは1期10週間のターンのようで，私たちの参加期間は最後の5週間でした。行ったころにはすでにクラスの子は仲良くなっているので，その点は少し残念ですが，だんだんなじめるようになり，最後には今後も連絡を取り合えるような友達ができました。私のクラスにはヨルダン，スリランカ，UAE，中国，韓国，台湾から来た学生がいました。年齢も国柄も人柄もばらばらで本当に楽しかったし，英語を通して文化の交流などもできて，言語という枠だけでなく，世界についても目を向けられる機会でもありました。

授業については各クラスによって違うので一概には言えませんが，週によって環境や犯罪などのテーマがあって，それに沿った実用的な英語を扱いました。日本では覚えるのに苦労した単語も，なぜかすんなり覚えられました。5週間で目に見えるほどのスキルアップは期待できませんが，多くの意味で確実に自分の世界は広がると思います。

（田中　実菜美）

＜クラスについて＞

学校の初日はさっそくクラス分けテスト。って昨年のコレ（体験談）に俺らもビビらされたけど，実際はテストなんて仰々しい物じゃなくて遊びみたいな感じでした！

まずSpeakingは…というより世間話です。「Where are you from?」『I’m from Japan.』「Oh ～ Yeah」みたいな？（笑）Writingは俺には鬼に見えました。書くのが苦手だと少し大変かも。Grammar，あなたが日本人であれば超余裕。超簡単◎Writingが全く出来なかった俺ですが，GrammarのおかげでLevel 3でした！

俺らのクラスには日本4人，韓国2人，中国6人，台湾・スリランカ・UAE・ヨルダンが1人ずつの，合わせて16人でした。授業はSpeaking，Listening，Readingが基本で，まあ俺はいつもてんやわんやしていました。冗談抜きで俺のSpeaking能力は最悪で，Power Pointを使ったプレゼン（自分の町について）では，ジェスチャーでみんなを笑わせるのが精一杯でした。先生苦笑い。。。そんな俺でも無事5週間を乗り切り，友達まで作って帰って来ることが出来ました。授業については何も心配ないと思います。身につく英語力はリスニングが気持ち程度（？）

（加藤　友崇）

＜クラスについて＞

クラスは，最初に行われる Speaking，Writing，Grammar のテストで決まります。Academic コースと General コースがあって，Academic コースは Nathan キャンパス，General コースは Mt.Gravatt キャンパスで授業を受けます。

私は General コースの Level 3 でした。クラスメイトは日本人 3 人，中国人 7 人，台湾人 3 人，韓国人 2 人，オマーン人 1 人，クエート人 1 人の 17 人で，年齢層が 18 ～ 36 歳と幅広かったです。授業はコミュニケーションをとるようなものが多いと思っていたけれど，結構真面目で，文法やリスニング，プレゼンをやったりしました。その他にはどのクラスにも SAC という授業があって，DVD をみたり，コンピュータを使ったり，好きなことができる時間があります。私はこの時間にロードオブザリングの英語版を見ました。また，週末にはさまざまな学校のイベントがあって，私は 1 週目にサンシャインコーストへ買い物＆遊びに行きました。他にも，サーフィンやロッククライミングなどのイベントが用意されていました。週末予定がない時は，このイベントを利用して安く遊びに行けるから便利です！私のクラスは最後の週にクラス皆でビーチへ遊びにいきました。みんなで料理を持ち寄って，ピクニックみたいな感じです。私は寿司を作っていったら，結構喜んでもらえました。寿司はだいたいどこの国の人も好きなようなので，作ってみるといいと思います。それまでクラスで何かをするということがなかったので，ゲームをしたり皆で遊んだりして，すごくいい思い出になりました。クラスメイトとは日本に帰ってからもメールで連絡を取っています。今回の留学で友達の幅がぐんと広がってすごく良かったと思います。

（河村　奈緒子）

＜クラス＞

私のクラスは 17 人で，日本人 7 人，台湾人 6 人，韓国人 3 人，コロンビア人 1 人でした。年齢は 17 歳から 20 代後半で，大学のプログラムで来ている人，海外の大学へ行く前の英語の勉強のために来ている人，仕事の休暇を利用して来ている人など様々でした。

日本人が多かったので，クラスの中で日本語を聞くこと，話してしまうこともありましたが，中には日本語で話しかけられても英語で返すという日本人もいました。日本語を使ってしまうかどうかはやる気次第だと思います。私の場合は，できるだけ日本人同士で隣の席にならないようにしたり，日本人以外に話しかけるようにしていました。

Level 2 のクラスでは，授業で学ぶ文法などは簡単でしたが，リスニングやスピーキングの力の無さを感じました。

私が日本に帰る前，みんなが内緒でメッセージカードを書いてくれていました。すごくうれしかった！最後にはみんなでカフェに行って話したり，写真を撮ったり…。とても楽しく，居心地のよいクラスでした。

（片桐　舞）

＜授業について（クラスのことも・・・）＞

授業はペア学習や，グループ学習が多く，この間にたくさんクラスの人と話す機会があり，仲良くなることができました。日本の授業と違うところは，とにかく英語でたくさんの会話をするということです。また，特

に難しいことはなく，楽しみながら学習するという感じでした。みんなと一緒に学習するという感じで，このグループ学習の間にいろいろな国の文化や習慣の違いも知ることが出来ました。この他にも自分の英語の発音を録音して聞いたり，週に一度 SAC という時間があり，DVD を見たり，音楽を聴いたり，雑誌を読んだりなど，自分の好きなことができる時間もありました。休憩中も英語で会話をするので，常に英語を話す訓練が，たくさんできました。

私のクラスには台湾，中国，韓国，香港，東ティモールと様々な国の人がいて，また年齢も 17 才から 39 才までとかなり幅広かったです。みんな親切で，前からいる人達にいろいろなことを教えてもらいました。人数も 18 人と少ないのでクラス全体に一体感があり，放課後みんなで BBQ をしたり，飲みに行ったり，一緒に買い物をしたりもしました。ほんとにたくさんのことを話しました。とてもいい思い出です！！

（服部　朋香）

＜授業について＞

最初に受ける試験で，自分のレベルに合わせたクラス分けがされるので，英語に全くついていけないということはなかった。台湾，中国，韓国，日本とさまざまな国籍，年齢のクラスメイトがいたのだけれど，みんな英語を学びに来ているので，その熱意が伝わってきて良い刺激を得た。それにとても友好的だ。休み時間にそれぞれの国の言葉で話しているのを聞いて理解できなくても，英語でならお互いの考えを伝えることができる。英語は国際語だとつくづく感じた。つたない英語を工夫して，いろんなことを話し，理解できたとき，英語って本当に楽しいと思った。それでももっと語彙があって，聞くことができたら良かったのにと思う。

（林　恵理子）

＜授業について＞

まず，Speaking，Writing，Grammar の 3 つからなるクラス分けテストが行なわれました。私のクラスは 4D で，日本人が 4 人，韓国人が 2 人，あと残りは中国人と台湾人で，合わせて 16 人のクラスだったので，いつも中国語が飛び交っていました。日本人の私にとって，この環境にはなかなか慣れませんでした。日本人の私は，Speaking がやっぱりできなくて，初めのうちはクラスのなかでうまくコミュニケーションをとることができなかったけれど，同じグループのみんなとは，次の日にはとても仲良くなったし，5 週間もあれば，他のみんなとも話す機会はたくさんあります。他のクラスからはおとなしいクラスと思われていたけれど，本当は賑やかでとても仲の良いクラスで，このクラスに入れたこと，そして 4D のクラスメイトには本当に感謝したいです。また，クラスを超えた日本人以外の友達も多くできました。

授業は，月曜から木曜が 9:00 から 3:30 まで，金曜は 9:00 から 1:00 までで，15 分のモーニングティーと 12:00 から 1:00 までのランチタイムがあります。ランチはほとんど毎日ファミリーがサンドイッチを作って

くれて…でも，誰かが買ったチップスをみんなで勝手に食べたり，お菓子をもってきたり，私は手巻き寿司を買ってみたりしたこともあります。手巻き寿司はもちろん生魚はなくて，卵とアボガド，牛肉とアボガドとかで，でもそれなりに美味しかったので驚きました。クラスには３人の先生がいて，もちろん半分くらいは教科書を中心にやっていたけれど，ほかには，別のクラスとディベートをして，その後大学内のパブにいって懇親会（？）のようなものをやったり，オーストラリアの州立裁判所に行って生の裁判の様子を実際に見たり，アボリジニについて詳しく勉強し，その後生のアボリジニのダンスを見て文化を学んだり…飽きないように様々な工夫が施されていて，あっという間に５週間過ぎてしまったように思います。

クラス内ではもちろん英語で，クラスのアジア人の人とはお互いに未熟な英語を用いるし，またそれぞれの国のなまりが出てしまうため，とても簡単な英単語でも理解するのに時間がかかってしまったこともありました。しかし，先生の言っていることがなかなかわからなかったときなどは，こっそり隣の子が教えてくれ，私をフォローしてくれたし，しばらくすると私の英語力もわかってくるので，その頃にはゆっくり英語を話してくれたりと，みんなとても親切で，毎日の大学生活はとても充実したものとなりました。オーストラリアは英語を使わざるを得ない環境を提供してくれるので，いやでも英語を話さなければならず，大変なことも数々ありましたが，結局英語力を身につける最短の方法だと思うし，代わりに得られるものも大きかったと思います。

（西谷　由莉）

フリータイム

＜放課後の生活＞

私のホストファミリーには７才と１才の子どもがいたため，お父さんやお母さんは毎日大変そうだった。そのため，休日に遊びに行きたくてもなかなか「連れてって」と言い辛かったので，家に居る事が多かった。平日は，初めの１，２週間は授業が終わるとすぐに家に帰っていたが，家に帰っても暇なのでそれ以降は大学のSAC（Self Access Computer）という所でDVDを見たり，コンピュータをやったり，雑誌を読んだりして勉強していた。それでも，交通の便が悪く，バスが少ないので１時間半後にはSACを出て帰らなければならなかった。

夜，夕食前後にはテレビのニュースやドラマ，バラエティー番組，CM等を見る時間をできるだけとるようにした。ホームステイをしていても，Good morningに始まり，Good nightで終わる日々が繰り返されるような感じで，私はあまり効果的だとは思わなかったので，英語を聴く時間をできるだけ確保したいと思い，テレビを見た。しかし，子どもが小さいことから，皆21:00には就寝するため，いつまでも自由にテレビ鑑賞もしていられなかった。

ホームステイをすることは初めての経験で，期待しすぎていたせいか，現実は大変で，気を遣うわ，ストレスは溜まるわという面もあったことも紹介しておく。一方，メリットも当然あり，それは，私にとってオーストラリアの“家族”というものをミクロの視点から参与観察できたことだ。実際に中に入ってみないと分からない家庭内の家事分担，夫婦のあり方，子どもの教育・しつけの仕方，食事，等々を見ることができたのは私にとってとても大きかった。

平日は朝6:30起床，21:00就寝というリズム。毎週金曜日はシティに出かけ，ショッピングや食事を楽しんだ。

（加藤　彩）

＜シティについて＞

私は，放課後や週末にはよくシティへ行っていました。シティの中心には歩行者天国で賑わうクイーンストリートモール（QSM）があって，その近くに，地下がバスセンターのようになっている Myer Centre（マイヤーセンター）があります。ここには Boost（シティのいたるところにある）や Easy Way（美味しいタピオカ入りのジュース）があったり，SUBWAY（サンドウィッチのようなもの）とかおなじみのマクドナルドや KFC もあります。また，オーストラリアならでは（？）の Hungry Jacks（ハンバーガー屋）も QSM にあるので，よく待ち合わせにしてました。いろいろ味を比べてみるのもいいと思います。でも，意外にオーストラリアの食品の物価は高いので，食費が大変でした。シティにはカフェが多く，Coffee Club（安くて多くて美味しい，シティでよく見かける）や Pan Cake（QSM と，少し外れたところにあるイタリアンの近くにひとつずつ）や Bubbles（6 ドルでケーキセットが食べられる），それに geratissimo（美味しくてかわいい 3.4 ドルのたっぷりなジェラート）などがおすすめです。また韓国料理なら，WAH（QSM にある）やマントッサン，Gaya（2 つともエリザベスアーケードにある）などがあって，中でもマントッサンがとっても美味しかったように思います。ここは韓国の人が教えてくれました。またエリザベスアーケードはアジア系のお店がとても多くあり，隣には KOZ Market という日本食のコンビニ（高いけど…）もあります。

QSM の i（information）マークのあるところに行けば，シティのことを詳しく教えてもらえたり，シティの地図をもらったり，ツアーのパンフレットをもらうこともできるでしょう。また私たちは週末の旅行（モートン島やナイトサファリなど）やクルージングの予約はすべて OZ-NAVI（エリザベスストリートにあるけれど，わかりにくい）という日系旅行会社でしました。日本語で大丈夫なので旅行の予約には最適だし，インターネットも 30 分までは無料なので，利用してみるといいでしょう。また，みんな日本人のスタッフなので，ブリスベンのことについていろいろ教えてもらえます。あと，日本語版の QLD マップ（シティやゴールドコースト，サーファーズパラダイスの地図）ももらえるので使えました。そのほか，シティの中心にあるシティホール（時計台）にはエレベータで上がれて，そこからシティが見渡せます（平日は 3:00 まで）。

また，私たちが到着した最初の週末には，リバーフェスティバルという花火大会（？）のようなものがあって，シティやサウスバンクはたくさんのオージーで賑わっていました。サウスバンクの川沿いから見た花火はとてもきれいで感動しました。サウスバンクは，バスで 2 駅ですが，歩いていける距離なので，シティから橋を渡ってサウスバンクに行くこともできます。サウスバンクは万博の跡地で，川沿いのプールには人口の砂浜があったり，公園には様々な国の国旗があったり，バーベキューができるようになっていたり，あと，おしゃれなカフェがあったり，映画も平日なら学割を使って 5 ドルで見れたりと，いいこと尽くしです。シティからバスで 5 ～ 10 分のところにはチャイナタウンがあって，私はランチに美味しい飲茶を食べました。チャイナタウンは思ったより小さかったけれど，おもしろかったです（でも時間は潰せないかな？）。

シティについて全体的に言えることは，カフェやバー，ファーストフード，その他飲食店を除くほとんどのお店が，平日は少なくとも 5 時には閉まってしまうことです。土・日も早く閉まるのですが，金曜日だけは 9

時までお店が開いていて，昼からもうすでにシティは多くの人で賑わっています（夜ならなおさら）。でもそんな平日でも Pancake は 24 時間営業みたいで，もちろんコンビニ（セブンイレブンしかなかったかな（？）。しかもかなり高めです）もやっています。キャンパスからバスで 10 分ほどの所には，ガーデンシティというショッピングセンターがあり，木曜日なら 10 時くらいまではやっていると思います。あと，Hungry Jacks の前にあるお店で Ten Trip（バスの回数券のようなもので，多くの人がこれを利用している）は買うことができます。

（西谷　由莉）

休日の過ごし方について

＜休日の過ごし方＞

このサマースクールに参加したメンバーによっていろいろな過ごし方があったと思いますが，私は 5 週間しかないのだから，どこかにでかけないともったいないという感じで，休日は必ず出かけていました。遠出の予定のない休日はほとんどシティに行きました。シティにはお洒落なオープンカフェがたくさんあるので，そこでケーキを食べながら友達と話す時間が一番好きでした。ここにいれば一日なんてすぐ過ぎてしまいます。映画も日本の半額以下で観ることができます。シティの近くのサウスバンクというところにはとても大きな公園があり，その中に人口のビーチや，BBQ ができる設備もあるので，ここでゆっくり過ごすのもいいです。また，ホストファミリーと一緒に過ごし，思い出をつくるのもいいです。

（服部　朋香）

＜休日の過ごし方について＞

5 週間の滞在で，土日はたった 4 回しかありません。この時間の使い方は大事だと思います。ちなみに僕は初めての土日は大学のツアーでサンシャインコーストとリバーサイドフェスティバル，次の日はローンパイン（動物園）。翌週は泊まりでモートン島，次はゴールドコーストに泊まり，最後の休日には一日ゴールドコースト，もう一日はファミリーと出かけました。こうしてみると毎週のように出かけていて，かなりアクティブに過ごしていたと思います。結果，たくさんのことができて楽しく過ごせました。泊まりを使うと次の日も朝からたくさん遊ぶことができます。シティには日本語が通じる旅行代理店（オージーナビ）があり，そこで相談すればおすすめの場所やホテルの紹介をしてくれるので是非行ってみてください。注意することは，2，3 日前に行ってもホテルが埋まっていたことがあったので，余裕をもって早めに予約しておくといいと思います。特にモートン島は値段からいってもかなりおすすめで海辺はほんとにきれい，部屋もとてもきれいでした。シュノーケリング，砂すべりなど色々できます。僕は休日毎日のように出かけて，ホストファミリーやホームメイトの誘いを断らなければならないことがありました。あちらは別にいいよと言ってくれますが，せっかく誘ってくれているのに後ろめたい気持ちもありました。そこで最後の日曜はホストファミリーと出かけることにしました。マウントクーサに行きました。車中のラジオで偶然，かなり昔の曲ですが僕の好きな曲がかかって，マザー，ファーザーもその曲が大好きみたいで，とても盛り上がりました。この日はいい思い出にな

りました。休日でなくてもいいですが，食後の団欒の時間でもファミリーやメイトの人と色々と話したりすることも大事かなと思います。　**（米川　紘輔）**

＜休日について＞

私はオーストラリアでやりたいと決めていたことがいくつかあり，休日には必ず遊びに出かけていた。オーストラリアというとほとんどの人がコアラ，カンガルーを想像すると思う。私もその口で，絶対にコアラを見てくると決めていた。ブリスベン市内にローン・パイン・コアラ・サンクチュアリという動物園があり，そこで私はコアラを抱いたり，カンガルーの餌付けを経験することができた。ずっとやりたいと考えていたことだったので本当にうれしかった。また他にも，スキューバダイビングをしてみたいとか，映画を英語で観るとか，たくさんやりたいことがあった。分からないことばかりだったけれど，友達やホストファミリーに聞いたり，インターネットで調べたりといろいろ試みてなんとか達成することができた。やりたいと思っていたことはあきらめず自分から動き出せば，必ずチャンスがめぐってくる。せっかく行ったのだから満足いくよう，挑戦してみるものだと思った。ダイビングもサーフィンもとても楽しかった。ゴールドコーストはまさにエメラルドグリーンの海に白い砂浜。大きな波が何度も押しては引き，一日中楽しむことができる。サンシャインコーストなど他にもたくさん素敵なところがあった。　**（林　恵理子）**

＜シドニー旅行記＞

ブリスベンでの５週間の滞在中，僕は土日の休みを利用してシドニーへ行ってきました。そこにはサークルの先輩のところへ遊びに行ったので，いろいろなところへ連れて行ってもらい，本当に充実した２日間でした。シドニーでお決まりのコースといえば，オペラハウスとハーバーブリッジを思い浮かべるでしょう。その他にも，シドニーには夜景がとてもきれいなダーリングハーバー，緑豊かで眺めのよい大きな公園，パティスマーケット，チャイナタウンなどがあります。ツアーでいいとこ取りもいいと思いますが，せっかくのオーストラリアです！有名な観光スポットだけ回るのではなく，休憩がてらのんびりと公園で昼寝するのもなかなかいいですよ（笑）。パティスマーケットは大型の市場で，様々なものがかなりお得な値段で売られています。また，オーストラリアは一回外食をするとかなりお金を使うことになると思うのですが，チャイナタウン内にあるお店なら手ごろな値段で食事ができます。チャイナタウンはブリスベン City にもあるので，お米が恋しくなったときには重宝するのではないでしょうか。ただ店によって当たり外れがあるので注意してください。

僕が旅行したときは，夜に先輩が友達を呼んでくれ，みんなでご飯を食べたり，留学生活の話を聞いたり，明け方近くまでナイトクラブやカジノで遊んで，とてもおもしろかったです。とにかくひたすら遊んでいて，中国人の友達なども紹介してもらい，英語を話す機会が多く，貴重な体験ができたと思います。友達同士で旅行に行くとなかなか新たな出会いはないけれど，知り合いのところへ遊びに行くときにはあります。今回の旅行で一番よかったことはコレだと思います。たった一晩限りだったけど，今でも連絡を取っている人もいます。

旅行で飛行機を使うときには，なるべく早くチケットの予約をすることをお勧めします。ギリギリに予約をすると航空券の値段が一気に跳ね上がるからです。また，９月の下旬は多くの地域でホリデーになるようなので，この時期も値段が上がります。それと，空港に行くときの交通機関。オーストラリアはバスも電車も休日

になると始発がかなり遅い時間になるので注意してください。僕の場合，朝の８時のフライトだったので 7:15 までに空港に着きたかったのですが，シティからの始発の電車は７時からだったので，断念してタクシーで行きました。なんと，タクシーは電車の６倍の料金でした（泣）。空港に限らず，休日に朝早くどこかへ出かけたいときには，家から目的地までのバスがちゃんとあるのかを調べてからにしないと，僕のようにヒドい目に遭いますよ。同様に，帰りのバスなどがあるのかも事前に調べておきましょう。

参考までに

使用した旅行会社：OZ-NAVI（航空券のみ）

使用した航空会社：Virgin Blue

（森田　健介）

＜ゴールドコースト（サーフィン）＞

３週目の週末に，生まれて初めてサーフィンをやりました。それもオーストラリアのゴールドコーストで！！ハマります！！特に元気な男子！ぜひ☆

OZ-NAVI に行くと日本人コーチによるサーフィンレッスンがあるから，まずはそれを利用した方が良いと思います。１レッスン＄39（1 時間半～２時間ぐらいのレッスン），ゴールドコーストまでも City から往復たったの＄9.4 で行けるからかなりお手軽です！！

とりあえず一度やってみて！やめられないからっ☆″

（加藤　友崇）

＜モートン島（Moreton Island）＞

モートン島はブリスベンにある唯一のリゾート島（？）で，砂によって出来たとても美しい砂島です。僕らはオーストラリアの滞在中に何度と無くお世話になった OZ-NAVI（スタッフが全員日本人！客ももちろん日本人！そして曲まで Japanese POP ！な旅行会社）で一泊二日のツアーに申し込んで行きました。ツアーには，ブリスベンにあるトランジットセンターからの送迎・宿泊・朝食・イルカの餌付け・青い海・白い砂浜が含まれています！！（ビキニの姉ちゃんを見たい人はゴールドコーストが better 笑）

行きはブリスベンの City からバスで 30 分，フェリーに揺られること１時間弱。モートンで最も有名な TANGALOOMA のリゾートビーチに到着。フェリーはめっちゃ快適やった。

フェリーが着くと桟橋でかなり日本語達者なオージー（？）が迎えてくれ，何から何まで世話をしてくれました。島では，１日目にシュノーケリングと釣り，水遊び，砂遊び，ビーチフラッグをした。シュノーケリングは海が綺麗すぎて障害物もないから何もいない！！もししたいのなら難破船シュノーケリングに参加した方が良いかも。釣りは桟橋で。夜 7:00 ぐらいからは野生イルカの餌付けもやった。本気で可愛すぎ！！ほんとーに幸せな一瞬でした。

宿泊は，ビーチ沿いにあるホテルの３人部屋と２階建ての VILLA と呼ばれる家を一つ借りて泊まりました。両方とも本当に綺麗で VILLA なんかもう立派

な別荘って感じです。かなりおススメ。夜は立派な別荘に集まってワイワイ，ガヤガヤ。飯作って，酒飲んで。今では最高の思い出です。次の日の朝食はバイキング。卓球・テニスをやって，昼はバーベキューして，最後の Activity に砂滑りへ行ってきました。一面に広がる砂漠！！そこを一気に滑る木の板！！最高やった！

モートン島はホント全員の一番の思い出だと思う！！本気できれいでスゴイから！！

（加藤　友崇）

交通・服装・持ち物・天気など，お役立ち情報

＜交通について＞

毎日の移動はほとんどバスを利用していた。ブリスベンのバス，電車はゾーン制になっており，何ゾーンを移動するかによって運賃が異なる。バスに乗りたいときは手を上げなければ停まってくれず，乗るときに行き先を告げ，運賃を支払う。そして降りるときは車内のベルを押さなければならない。このとき注意しなければならないことは，オーストラリアのバスは車内放送がないので，自分で降りるバス停を覚えていなければならないということだ。オーストラリアに行く前はよく分からなかったけれど，とりあえずやってみればそのうちにわかってくるものだ。また，いろいろな人に聞けば，みんな親切な人ばかりなので，よく教えてくれる。私が便利だと感じたのは，デイリーチケット（平日用）とオフピークチケット（主に休日用）で，一日乗り放題のチケットである。また一般のチケットも２時間以内，同じゾーン内なら何度も利用可という仕組みもある。ゴールドコーストへはバスから電車に乗り換え，同じチケットで行くことができた。

（林　恵理子）

＜交通について＞

とにかく私の住んでいた所は不便だった。平日は１時間に１本。休日はノーサービス。最寄りの比較的大きなバス停まで，おそらく歩いて１時間以上。車がないと生活できない。他の岐大生はそんなことなかったみたいで，私はハズレだったかもしれない。

日本と違って，バスと電車は同じチケットで乗れるよ。

（加藤　彩）

＜天気・服装・持ち物＞

天気は毎日半端なく乾燥しているので，対策を練ったほうがよさそうです。寒さは日本の冬の終わりぐらいから春の終わりぐらいでしょうか。後半は日中暑くなりますが，朝晩は冷え込むし，教室も意味もなくクーラー付きだすので羽織るものは必要です。年によってだいぶ気候の差はあるようです。

持ち物は，国際学生証明書，コレは必要ないと思いました！バスも電車も学割使えません。結局役立たずでした（QLD の学生証のみ学割が利くシステムのようです）。パソコンもあんまり必要ないんじゃないかなぁ？日傘も誰も差してないので使えなかったです。家族の写真などを持っていくと会話にもなるし喜ばれます。

（田中　実菜美）

＜持ち物・服装・天気について＞

一番気をつけるといいと思ったのは，服装です。ブリスベンの８月は朝夜と昼の気温差が激しくて，夜朝はとても寒いです。季節的には冬の終わりだけど，朝夜用にニットなどの暖かい服を一枚は持っていったほうがいいと思います。9 月になると気候はだんだん暖かくなってくるので，T シャツ類＋長袖のカーディガンのような感じでいいと思います。9 月後半には気温が 30 度を超える日もあって，現地の人はキャミ一枚で過ごしている人もいました。あと，肌がかなり乾燥すると思うので乾燥対策に何か持っていったほうがいいと思います。日差しも強いので日焼け止めやサングラスも必要だと思います。

持ち物について，私は海外で使える日本の携帯電話を持っていったのですが，やはりそれは料金が高くて，日本に帰って請求書を見てびっくりしました。日本にかけるときは OZ カードなどで安く電話できるし，オーストラリアで携帯を借りることもできるので，日本の携帯があれば日本の家族などに簡単に連絡をとることはできるけど，あると使ってしまうので私にはあまり必要なかったなぁと思います。あと，私が持っていったかばんは小さめだったので，飛行機へもちこむ手荷物のときや旅行のときに荷物が入りきらなくて困りました。かばんは大きめのものを持っていったほうがいいと思います。

（鈴木　麻衣）

＜携帯＞

携帯をどうするかは，出発前に皆かなり悩んでいました。結局半分くらいが日本で契約して，残りのうち 4 人が現地で調達しました。私は調達した組ですが多分そのほうがメリットは多いと思うので紹介します。

CITY という町の Queen street 沿い，hungry Jacks の近くにあるビルの 4F，日テルコミュニケーションズ（nittel_communic@ations：住所は Level 4, 117 Queen St. Brisbane QLD 4000 で，電話が 07-3012-8812）で借りるのが一番安かった！機種自体は無料で借りられて，約＄27 払ってその分だけ使い放題。それを超えた分は契約内容よりは少し高めの料金が加算されていくシステムのプランにしました。それだと豪で契約した機種にだけメールが打てます（ローマ字のみ）。プランをかえれば日本で契約した携帯にもメールが打てたり日本語にできたりしましたよ（お金は少々かかりますが）。豪国内契約同士だと日本と変わらない料金で連絡できます。日本で契約するとメール 1 回 100 円で受信料もかかり，電話も 1 分 85 円ほどだったと聞きました。なので，サマースクールのメンバーに頻繁に電話をするなら，皆そろって現地で借りるのが安いと思います。そうすれば夜 20 時から 24 時まで，10 分までなら何回かけても無料（豪国内で契約した携帯に限る）という使い放題の特典もついてきます。日本にかけるときもご心配なく。Ozcard というプリペードカードを使えばそんなに高くありません。携帯から直はどうしてもお金がかかるので，絶対使ったほうがいいです。このカードは公衆電話でも使えます。＄20 分のカードで，日本に 6 回？ほどかけ（1 回につき 10 分ほどかけたかな。），それと豪内の友達にも頻繁にかけて，よく覚えていませんがそれくらいで使い切りました。＄20 分もあれば十分です。＄10 で十分な人もいました。ホットメールのアドレスを作っていけば学校に 24

時間あいているパソコン室もあるのでそれで十分です。皆朝早めに来てメールチェックしていましたよ！

（田中　実菜美）

＜持ち物，服装，天気＞

服装はＴシャツの上にジャージかジャケットを羽織っていました。朝，夜はＴシャツでは寒いけど，昼間はＴシャツにならないとちょっと暑いです。ジャケットが必要になる正式なパーティみたいなものはなかったです。向こうはけっこう乾燥するので保湿クリームも必要かと思います。サングラスについて，僕は普段めがねをかけているので度付きのものを買っていきましたが，普通のものだったらむこうでも買うことができます。実際みんなあまりかけていなかったし，必要ならむこうでいくらでも買うことはできます。日差しはこっちよりも強いですが無くてもなんとかなります。サンダルもあると便利ですが向こうでも買えます。あと，たまに雨が降るので折りたたみ傘は必要です。

（米川　紘輔）

＜持ち物・服装・天気＞

向こうに滞在している間，ほとんど雨は降らなかった。私は帽子やサングラスはあまり使うことがなく，日傘はまったく必要なかった。けれど日焼けを気にする人は必要だと思う。クイーンズランドの上空は特にオゾン層が薄くなっているそうなので，日焼け止めはたくさん持っていってよかったと思う。到着したばかりのころは，冬なので当然ながら，ものすごく寒かった。朝夜がとても寒いので，長袖，長ジャージ，パーカ，ウインドブレーカーやジャケットは気温によって調節することができ，持っていってよかったと思う。あとは半袖も必要だ。それから特に，洗濯ネットは役に立った。

（林　恵理子）

＜その他持っていくといいもの＞

・ポケットティッシュ（何かと重宝しました）
・クレジットカード（現金がなくなるなど，万が一のとき用に）
・トラベラーズチェック（そのまま使える場所は限られるが，換金レートがよい。ちゃんと現地の何ヶ所かで換金もできるのでご安心を。何より大金を持ち歩くときに安全）
・携帯電話（現地でも借りられるが，向こうのものは機能が少ないし使いにくい。ただし，料金は現地で借りたほうが断然お得です。迷っている人は＜携帯＞の項をチェックしてみてください）
・デジカメ，カメラ（海など，砂浜に行くときはインスタントカメラがbetter。砂浜の砂によって，デジカメが壊れた人がいます。予備のSDカードも必要だと思います）
・ソケットアダプター（240V用）
・テーブルタップ（これがあると，ドライヤーやデジカメの充電器が同時に使えます）
・自分の街を紹介できる写真つきのパンフ（話のネタができます）
・折り紙（小さい子どもに喜ばれるよ）
・便箋（結構みんな日本に手紙出してました）
・お土産（ホストファミリーやクラスメイトにあげるとgood）
　e.g.風鈴，手ぬぐい，縁起物，日本の硬貨，うちわ，扇子，陶器類，…etc
・日本食（恋しくなると思う人は持っていくとよいでしょう）
・ジャケットやセーターなど（とにかく着いたばかりの頃は朝，晩が寒かったです）

＜お勧めスポット＞

・モートン島（昨年と今年のメンバー，ともに大絶賛です！特にイルカの餌付けにはみんなが感動しました！）
・Gold Coastでサーフィン（サーファーズパラダイスと言われるだけあり，かなりいい波が来ます！）
・フレーザー島（少し高いですが，大自然に触れてみたいという人にはおススメです）
・Lone Pine（約＄15でコアラを抱くことができます。とってもカワイイです！）
・DREAM WARLD（BrisbaneとGold Coastの中間に位置する，人気の遊園地）
・ナイトクルージング（City Catと呼ばれる遊覧船からの夜景は，キレイの一言！）
・イタリア料理の店（店員さんがかっこいい！）
・24時間営業のパンケーキ屋（昨年のメンバーのおススメ！おいしかったです！）
・BOOST（juice屋さん）
・もうひとつの青い店内のジュース屋さん（Myer Centre/Garden city内）
・CityとGold Coastにあるジェラート屋さん！（ラズベリー味以外はおすすめです）
・ピザ屋さん
・Coffee club（喫茶店）
・バブルス（ケーキ屋さん）
・シティの韓国料理店（WAH，Gaya，マントッサン）
・OZ-NAVI（日系旅行代理店）
・日テル（日系電話会社）
・City hall
・Mt.Gravattのキャンパス内にあるカフェ（ゆっくりすることができるし，ワインがおいしかったです）

終わりに…

＜貴重な体験＞

オーストラリアでの生活は何もかもが新鮮でした。全部英語，何もかも英語です！私は外国の町並みも好きだったし，英語も好きなので毎日本当に楽しい生活を送ることができました。最初は初めてのことばかりでおどおどしたけれど，それもそれで楽しかった！慣れてくると自分の英語のしゃべれなさに落ち込んだり，歯がゆい思いをしたこともありました。でも今となっては全部いい思い出です。自分の実力が試せたと思います。

帰ってきた今，英語を本格的に話せるようになりたいという新たな目標もできたし，私にとってこの体験は自分の英語に対する姿勢を考えさせてくれる，日常生活ではできない本当に貴重なものとなりました。サマースクールに参加する前は自分の英語力を心配していましたが，行ってしまえば何とかなる！！悩んで参加するのをやめてしまう人がいたなら本当にもったいない！絶対行ったほうがいいと思います。多くの人は本当にやさしい人ばかりで，道で困っていると誰かは助けてくれます。5週間という短さも，逆にいってしまえば毎日落ち込むひまなくポジティブに過ごそうと思えるので，ある意味メリットではないかと思います。長期留学したいと考えている人も，このサマースクールを第一歩にするにはいい機会ではないかと思います。どう過ごすかは自分次第！是非とも充実した5週間にしてほしいと思います。　**（田中　実菜美）**

＜おわりに＞

今年のこの11人のメンバーに出会えたのも，同じクラスの友達になった中国や韓国の人も，先生も，ホストファミリーも，何かの縁。1ヶ月の異国での生活を通して考えたこと，学んだことは言葉で表現するのは難しい。この経験を大切にしたいと思う。

この留学で，最終のテストで自分がこんなにも英語運用能力があるのだということも証明され，認められたのが一番嬉しかったし，自信になった。これからも毎日努力していこうと思う。この1ヶ月は，新しい挑戦をしようとする自分の背中を押してくれた気がする。

（加藤　彩）

＜かけがえのない時間＞

オーストラリアで5週間生活してみて，自分の言いたいことを伝えるのにかなり苦労した面もあったけれど，その悩みを岐阜大学から一緒に参加したメンバーに話すことにより，みんなと悩みを共感でき，とても気が楽になりました。そして，うまく英語を話さなければいけないという緊張間もなくなり，ホストファミリーともうまくコミュニケーションをとることができました。私にとって，この仲間と一緒に参加できたことは大きかったと思います。また，ファミリーにオーストラリア特有の英語の言い回しなども教えてもらい，日本の学校の授業では習わない生の英語にも触れることができました。たった5週間ではあったけれど，こんなに毎日が充実した生活は，決して日本にいては出来ないものだと思いました。英語力に関しては大してあがった気はしませんが，それ以上に得たものがたくさんありました。ほんとにたくさんの人との出会いもありました。このような貴重な経験ができたことを嬉しく思います。

（服部　朋香）

＜サマースクール＞

とにかく，この5週間はあっという間でした。成果として何があるかと尋ねられたとしても，特にこれとはっ

きり自信を持って答えられないけれども，私はこのサマースクールに参加してみて本当に良かったと思っています。そもそも私は英語が得意というわけでなく，むしろ大嫌いでした。駅にいるとき，一度英語で話しかけられたことがありました。そのときとても簡単な質問なのに，私は単語でポツリポツリ答えたり，身振りで何とか示したり，パニックになってしまいました。だから日本にいる限り英語なんて必要ないと自分に言い聞かせてきました。けれども，私の友達が去年サマースクールに参加し，激変して帰ってきました。彼女の英語はかなり流暢になっていたし，本当に楽しそうに，自分が知らない世界の話をしてくれました。それを聞いているうちに，興味を持つようになり，いつの間にか私も参加してみたいと思うようになっていました。もちろん不安でいっぱいでしたが，勢いで決めてしまいました。実際に行ってみて，自分の英語力が飛躍的に上がったとは言い難いです。ただ，伝えようと思えば何とかなると分かり，少し自信がつきました。今思えば，英語力なんて関係なく，必要なのは最初の一歩を踏み出す勇気だけです。やってみたいという気持ちだけであとは何とでもなります。正直，自分で何とかせざるを得なくなります。そんな環境に自分をおいてみる勇気が一番大切だと思いました。

オーストラリアは本当に美しいところです。海や山，空，すべてが澄んでいて綺麗だと思いました。それだけではなく，道端や学校にも芝生があり，さまざまな木々がのびのびと生い茂っていました。ほとんどの家は大きく，必ずといっていいほど，広く，手入れの行き届いた素敵なガーデンを持っています。日差しは強いけれど，のんびりとしていてとてもよいところだと思います。

オーストラリアで５週間生活してみて，お風呂につかりたい，野菜が食べたいと何度か思いました。それでも寂しいと感じることなく生活できたのは，クラスの友達，岐大の仲間，ホームステイ先の彼女，みんなのおかげだと思います。遊んでばかりの生活も良かったのかもしれません。本当にいろいろな人に出会えてよかったと思います。その人の人生の一部に触れることができてよかった！どんな言葉を話していても，同じ人間として必ず仲良くなれるものです。サマースクールに参加してよかった！心の底から，もう一度行きたいと感じています。

（林　恵理子）

短期留学（サマースクール）参加者アンケート

1．先方の大学での研修について

a．履修した授業の内容（科目，授業の概要等）とそれぞれの満足度を１～４点で書いてください。

平均　writing（エッセイ）3.1 点　（回答９人）
speaking（テーマについてディスカッション）2.9 点　（回答８人）
listening（ニュース・映画の聞き取り）3.3 点　（回答９人）
reading（長文を読む）2.9 点　（回答８人）
grammer(文法の説明)　2.5 点　（回答２人）
sac（映画を見る）　４点　（回答２人）
pc（英語で新聞を読んだり，発音の練習など）３点　（回答１人）

b．参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を１～４点で書いてください。

平均　アボリジニ　３点　（回答３人）
サンシャインコースト　2.7 点　（回答６人）
ピクニック　４点　（回答１人）
ミュージアム見学　４点　（回答１人）
ＢＢＱ　４点　（回答１人）

c．先方の受け入れ体制について

・生活面でどんなことをしてくれましたか？
＊昼食を作ってくれたり，英語で話す機会をくれたり，電車・バスのお得情報を教えてくれた。
＊日本語で話してくれた。
＊明るくアクティビティの情報を教えてくれた。
＊ホームステイのミーティング
＊出発前のミーティング
＊空港への（からの）送迎
＊ホームステイ先での問題を聞いてくれた。
＊誘導
＊ファミリーと調子は合うか，会議をして頂いた。
＊入学時の説明
＊分からないことがあったときの対応
＊帰るときの空港への引率・空港での手続き。
＊基本的に掃除や洗濯は Father が，料理は Mother がしてくれた。しかし洗濯のときはやはり Father に抵抗感があったので自分でやりたかった。

・勉強面でどんなことをしてくれましたか？
＊日記を毎日見て直してくれた。
＊授業，問題ありませんでした。

＊ホストファミリーは，オーストラリア独自の英語を教えてもらったりした。
＊授業
＊両親の孫娘が中学生で，その子と話す機会が多くありSpeakingの練習になった。
＊基本的に宿題はほとんどなく（というよりも自主制に任されていたので）勉強を家ですることはあまりなかった。

・その他で頼りになる人はどんなことをしてくれましたか？
＊行ったばかりのころに話しかけてくれ，電車やバスのことを教えてくれた。
＊アクティビティのことについて
＊週末のアクティビティの企画
＊なやみをわかち合えました。
＊やっぱりFatherには話しにくいことも相談することができたしブリスベンのことについて，また旅行に行く際にもいろいろ交通手段のことを教えてもらった。オーストラリアでできた友達も頼りになった。いろんなことを教えてもらった。

d．留学期間について

適当　４人
長い　０人
短い　６人

e．その他授業について困ったこと，先方に対する要望等自由に記入してください。

＊最初,先生の言ってることが分からず困った。でもキャリーは本当にゆっくりとわかりやすい英語だった。
＊もっと先生と話したかったです。
＊困ったことは特になかったですけど，私のクラスには授業中でも中国語を話す子が多くて，もっと英語を話してほしかったことはあります。
＊食堂の電子レンジを増やして下さい。

2．ホームステイについて

１部屋約　５畳１人　６畳６人　７畳１人　８畳１人　12畳１人

a．部屋にあった設備を記入してください。

テレビ　ベット　机　ランプ　エアコン　パソコン（使ってません）　クローゼット
小さい電気　ゴミ箱（途中から）

b．食事はどうしていましたか？

＊お父さん，お母さんが毎日作ってくれた。
＊いつもはヘレン（ホストファミリー）が作ってくれた。でも一人暮らしの女性で忙しいので週１は自分で作っていた。
＊６時半ごろみんなで食べていた。
＊夕食はマザーが作ってくれました。朝食はシリアルを自分で用意しました。
＊作ってもらっていました。
＊すべて作ってもらってました。
＊ファミリーと一緒に。留学生（韓国人・中国人）
＊お母さんがほとんど作ってくれて，時々ピザを頼んだり，夜遅くなるときは外食をしていました。

＊夜はマザーが大量に作ってくれ,好きな分を取って食べる。昼は夜の残りを持っていったり,サンドウィッチを作ったりした。朝はすべて自分です。好きなようにできました。
＊昼食はサンドイッチを作ってもらっていたが，大学でポテトなどを買って食べることも。朝食は家で。夕食は週 3 回くらいは外食に。私の家は夕食が 6：30 くらいでそれより遅くなると外食だった。

c．ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

＊食事について仕方ないこととはいえ，ピラフ，ヌードルばかりじゃなくもう少しバリエーションがほしかった。
＊ホームステイメイトの韓国の子が友達を 10 人つれてきた。帰ってくると自分の部屋の中にも数人が入り込んでいて驚いた。プライバシーはあいまいなので，自分の貴重品は家の中であってもトランクの中に入れて鍵をかけておくべき。
＊あまり話す時間が作れなかった。マザーが仕事で忙しいのか，昼夜逆転していて，早く帰っても眠い･･･。といっていた。
＊シャワーが使える時間が少なかったこと。
＊途中まで部屋にゴミ箱がなくて。家に 1 つしかなかったので困った。あと,家の鍵を渡してもらってなかったので時々家に入れず外で 30 分～ 1 時間くらい待ったりした。
洗濯は毎日のように行ってくれたが Father に抵抗感があった。ステイ先のファミリーが少し特殊だったので生活リズムが最初のうちわからず，慣れるのに時間がかかり，苦労した。

d．ホームステイについて良かったこと・悪かったこと，要望など記入してください。

＊バスが少ない。
＊英語を好きになれたことが良かった。
＊一人暮らしの女性だったので，1 対 1 で英会話をすることができた。
＊ただ食事についてもう少し色々なおかずが欲しかった。
＊やさしいファミリーで外に連れ出してくれた。帰り際には自分にも両親にもお土産をくれて，とてもうれしかった。
＊ファーザー，マザーがとても良い人でとても楽しかった。
＊みんな明るくてたくさん話しかけてくれたけれど，理解できないことがたくさんあった。でも子供がいてくれたことで，話せなくてもコミュニケーションがとれた。毎日毎日楽しく過ごすことができた。
＊子供が結婚していなかったので，大事にしてもらえました。やりたいことをやらせてもらえたし，週末にナチュラルブリッジや動物園につれていってもらえました。
＊良かったこと・・ご飯がおいしい，たくさん話してくれる，中国人と韓国人の留学生とも話すことができた，とても親切。
＊同じくらいの年の子がいたので，一緒に買い物に行ったりしたのが良かったです。
＊基本的に全て自由だったので不満はありません。満足しています。
＊ホームステイ先のファミリーの希望についてのアンケート？が少なかった。ファミリーと英語を話す機会があまりなかった。ファミリーはそれぞれ受け入れに慣れているようで各々の時間を大切にし，ご飯を一緒に食べることもなく，それぞれ自分の部屋にいることも多く残念だった。しかし，学校ではアジア人の友達が多くできて，異文化について学ぶこともできた。

3．生活全般について，トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル

①ホームメイトとうまくいかなかった。
②盗難
③洗濯・家の鍵について

対応

①ファーザーがよく話しかけてくれた。
②一緒にさがしてくれた。
③相談せず

4．所要経費について（平均）

・支出総額　553，111 円

（内訳）

・参加費（航空費・宿舎費含む）399，777 円
・食費　30，000 円
・保険料　15，500 円
・その他　88，333 円
参加費について　高い８人　　適当２人　　安い０人

5．出発までの学内の諸手続き，出発前の事前研修について気が付いたこと，要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

＊色々やっていただいて，ありがとうございました。
＊カンタンで良かったと思う。
＊学生証明証はいらない。（使えなかった。）
＊分からないところは全て生協で聞くことができるし，ほとんどの手続きを生協がやってくれたのでとても楽でした。生協で色々準備して下さって助かりました。ありがとうございました。
＊昨年，おととしの情報を多く手に入れることができたので，準備が楽だったし，楽しみに待つことができた。全体的に良かったと思う。

（出発前の事前英語研修について）

＊全共と全く同じテキストだった。長い時間の割に役立たなかった。もっと会話中心にするなどして改善しないと時間のムダに感じる。
＊日程がキツかった。実際にあまり役立たなかった。
＊１日あたりの授業時間が長かった。
＊向こうで使う英語の勉強がもっとしたかった。
＊正直あまり意味がなかったように感じました。太田先生の研修は楽しかったし，スピーキングの練習になりました。
＊事前研修は８月中に集中して，という形だったが今まで通り前期の放課後の方が少しくらい集まりが悪くても良かった。内容は実際にオーストラリアで役立ちそうなものが多く良かったが少し簡単すぎだったと思う。
＊事前研修では，英会話とか自分の国や地域専門について学んだり調べる時間，余裕があるといいと思った。
＊太田先生の授業は良かった。こちらでもっと留学生と話す機会を作ってみてはどうかと思う。

6．短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

＊本当に参加して良かったと思う。まだまだ英語も自分も駄目だけれど，またもう一度行きたいと思う。
＊ただの観光旅行では得られない貴重な体験ができた。特にファミリーやクラスメイト，ホストメイトの友人との会話はとても楽しかった。

＊ホームステイでの思い出がいちばん心に残っています。ファーザー，マザーと話すのがすごくおもしろくて，また会いに行きたいと思っています。本当に行って良かったと思います。
＊学校，ホームステイなど様々な人と出会うことができ，英語で話すことができて良かった。聞きとり話すことができないことを痛感し，勉強したいという気持ちになれたことが良かった。
＊日本とは雰囲気が全然ちがっていい経験になりました。絶対行って良かったと思います。できれば長期の留学もしたいです。
＊本当に価値のある，貴重な体験だった。心から参加して良かったと思える。途中，英語が話せない，通じないと嫌になった時もあったが，５週間という短い時間が逆に私をポジティブにさせたのではないかと思う。世界や英語を見る目が広がったと思う。自分にとって英語に対し行き詰まりを感じていた時期でもあったので，本当に刺激ある自分にとって必要な体験だったと思う。学校主催ということで，私のような外国初体験の学生にも安心して参加できるもので，とても良い企画だと思う。今後も是非続けて頂きたいです。
＊５週間という期間で正直英語能力が上がったとは思いませんが，それ以上に得たものがたくさんありました。私は今まで日本人以外の友達はいなかったけど，サマースクールに参加することによって，他の国の子と意志の疎通ができることを実感しました。本当に参加してよかったです
＊日本にいればできない経験ばかりだったので，本当に充実した５週間でした。言語を学んだことも大きかったが自分の見識を広げれたのが一番の収穫です。今は英語以外の他の言語も学びたいです。
＊英語でコミュニケーションをとることが思った以上に難しかった。レベル４のクラスだったが Speaking や Listening の能力はどうしてもクラスについていくことができず，本当にこのクラスでいいのかとまどった。けれどクラスの子がとても親切で，先生もまた親切で，少しは上達できたと思う。ファミリーとの関係も想像していた以上にうまくいかないことが多く，生活のリズムに慣れるまでにとても多くの時間を費やした。しかし，ブリスベンの街並みやオーストラリアの人の親な対応は満足いくものだったので５週間はあっというまだったと思う

７．来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

＊もう少し英単語など知っているとよかった。やりたいことはこうと決めてやるのがいいと思った。
＊お金はかかりますが，それ以上の経験を得られると思います。
＊慣れれば何をしても楽しくなると思うので，楽しんで下さい。
＊少しでも行ってみようという気持ちを持ったのなら行ったほうが絶対いい。無駄になることはなにもない。
＊とにかく短いので，１日１日大切にして下さい。慣れるまで待つとかはダメです。
＊５週間は自分で充実させる！！という意志を強く持つ。英語を使いまくる。
＊向こうに行けばなんとかなります！！
＊少しでも興味がある人にはいいと思います。興味はあるけど勇気がないという人も安心して下さい。岐大から何人か一緒に行くので心強いです。
＊オーストラリアの気候は朝晩が冬並に寒く，昼間は春～夏の温度でしたが日差しがとても強く，また本当に感想していました。日本との違いに慣れることは大変だけれど，いい経験になると思います。

８．お礼の手紙について　（回答なし１人）

・出した　　７人
・出していない　　２人

岐阜大学留学生交流推進委員会委員名簿

部　局	氏　名	備　考
留学生センター	ラッセル , ジョン・ゴードン	サマースクール総括
教　育　学　部	伊藤徳一郎	
	長野　宏子	
地 域 科 学 部	野原　　仁	歓送迎会担当
	三谷　　晋	
医学系研究科・医学部	渡邊　和子	
	金子　英雄	
工　　学　　部	大矢　　豊	見学引率
	石田　　勝	エクスカーション引率
応用生物科学部	芳村　了一	
	柳井　徳磨	
留学生センター	牟田おりゑ	サマースクール副総括・日本事情講義
	森田　晃一	サマースクール副総括・日本事情講義・エクスカーション引率
	太田　孝子	派遣・学生交流・広報担当・日本事情講義・見学引率
	橋本　慎吾	広報担当・日本語総括・日本事情講義
	宮谷　敦美	宿舎担当・日本語授業・国際理解教育授業担当

編集後記

今年の夏は暑かった。日本人がそう感じるのだから，北欧スウエーデンの学生が感じる暑さはいかようなものだったろう。この報告書の随所に「暑さ」に関する記述が見られるが，彼らはめげることなく日本を楽しんでいったようだ。

今年の報告書では，例年掲載していた「参加学生の感想」に換えて，「私が選んだこの一枚」という作文集を掲載した。学生たちの個性をより鮮明に切り取れたのではないかと思う。

（は）

▼

岐阜大学の夏休みが半分終わるかという頃，サマースクール（派遣）参加者 11 名がオーストラリアに旅立った。出発前には，例年通り，語学（英語）や異文化理解等に関する研修を行い，帰国後は「サマースクール報告会・反省会」を実施した（10 月 19 日）。今年は，例年よりサマースクールの開始が遅く，後期のオリエンテーションが始まってからの帰国となったが，そのため，現地では予想以上に暑くて乾燥した日々を過ごすことになったようだ。“百聞は一見に如かず”を体験した参加者の報告を，じっくりお読みいただきたい。

（お）

岐阜大学夏期短期留学
サマースクール 2005 報告書

〒 501-1193　岐阜市柳戸 1-1
発行年月日　2006 年 1 月
発　行　者　岐阜大学留学生センター
電　　話　058-293-2142
F　A　X　058-293-2143
印　　刷　株式会社コームラ

Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center